

北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館)
年報

令和2年度



特別展「名刀「博多藤四郎の輝き」 戦国を生き抜いた武士の絆」会場入口

ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は平成14（2002）年11月3日に開館し、令和2（2020）年で18年目を迎えました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延という未曾有の事態に直面し、二度の休館を余儀なくされました。春・夏・秋に予定していた特別展については中止または延期になり、普及講座やボランティア活動なども行えない状況でした。開館以来最も苦しく、また博物館の未来について考える年でもありました。

しかし、時間制ウェブ予約システムの導入、インターネットを使った様々な情報発信の試行など新しい取り組みを進め、ようやく冬と春には特別展を開催することができました。そのような厳しい状況下でも年間137,736名ものお客様にご来館いただきました。博物館が皆様に愛されていることを職員一同改めて実感した次第です。

当館は、地球誕生から現在に至る生命の進化の道筋、そして、人の営みの移り変わりを「いのちのたび」と捉え、未来に向かう私たちの生き方を考えるために、さまざまな活動に取り組んでいます。このような社会情勢の中であるからこそ、博物館の使命を全うし、多くの皆様が楽しく学んでいただける場となるよう、職員一同これまで以上に研鑽を積み、職務に取り組んでいきたいと思っております。

ここに令和2年度の年報を刊行いたします。本号には新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する当館の取り組みについてもまとめました。多くの方々に当館の活動を知っていただき、これまで以上に地域に根ざしながら、情報を世界に発信できる博物館となるよう努めてまいります。積極的なご意見とさらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

令和3年8月

北九州市立自然史・歴史博物館
館長 伊澤 雅子

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

<理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

<方向性>

知的アクセス権を保障する博物館...知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館...将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館...社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

ごあいさつ

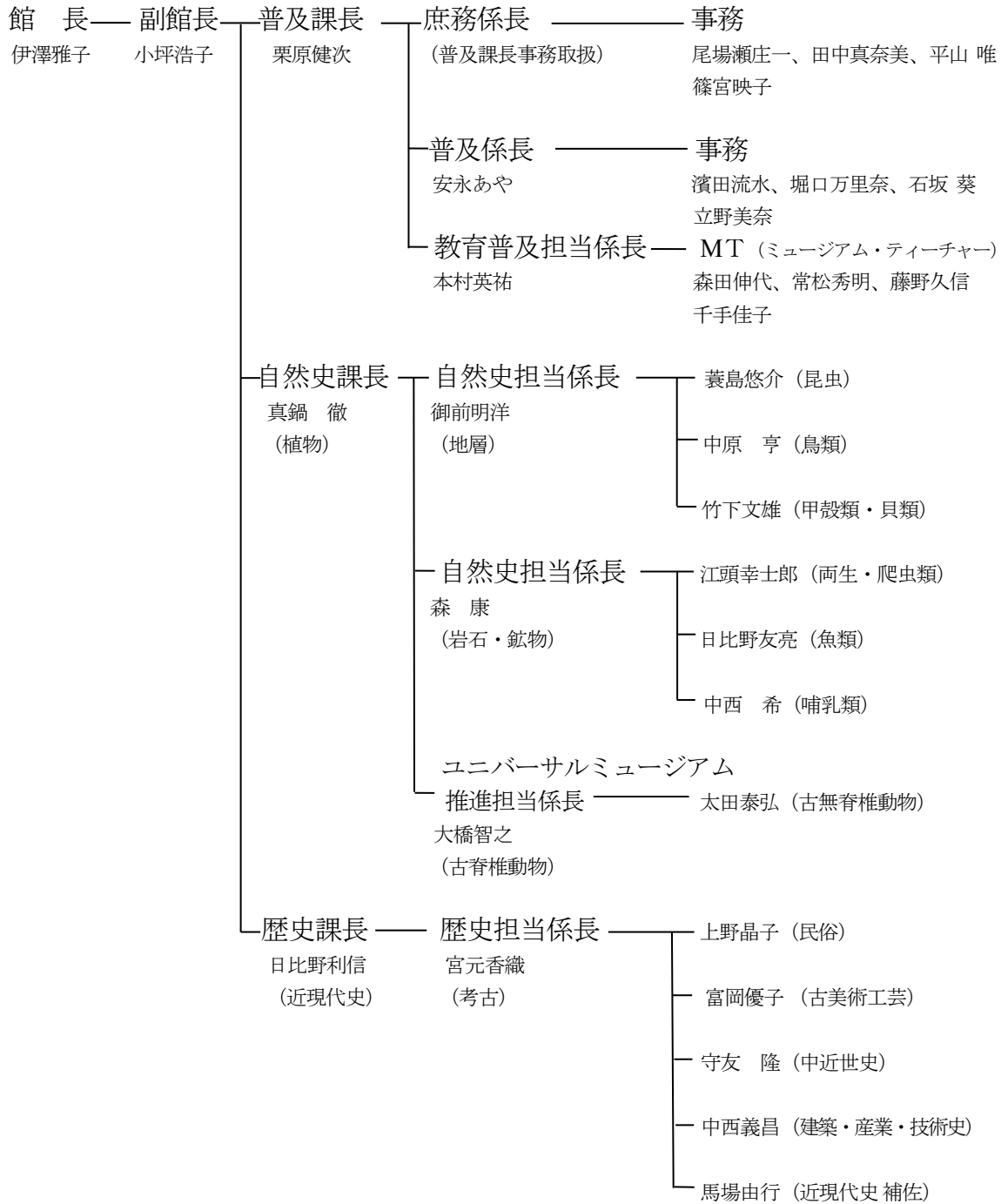
北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 博物館評価.....	3
4. 令和2年度予算.....	4
5. 施設概要.....	5
6. 沿革.....	6
7. 入館者の状況.....	10
8. 視察受け入れ状況.....	11
9. 広報・報道実績.....	12
10. 新型コロナウイルス対策.....	13
11. 特別展.....	21
12. 企画展・その他展示.....	25
13. その他の事業.....	34
14. 教育普及活動.....	37
15. 博物館ボランティア（シーダー）の活動.....	44
16. 自然史友の会の活動.....	45
17. 歴史友の会の活動.....	46
18. 資料の収集保存状況.....	47
19. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	50
20. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	50
21. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	51
22. 研究業績.....	54
23. 博物館刊行物.....	61

1. 組織・運営体制

(1) 令和2年度組織

(令和3年3月末日時点)



(2) 名誉館員

藤丸詔八郎 (2005.4.1)	戸来義臣 (2007.4.1)	税田昭徳 (2007.4.1)	藤井厚志 (2008.4.1)
岡崎美彦 (2010.4.1)	永尾正剛 (2011.4.1)	有川宜博 (2012.3.1)	上田恭一郎 (2013.4.1)
伊藤明夫 (2015.4.1)	山根明弘 (2016.4.1)	山家桂一 (2018.4.1)	藪本美孝 (2018.4.1)
下村通誉 (2018.4.1)	武石全慈 (2018.4.1)	馬場 稔 (2019.4.1)	松井和幸 (2019.4.1)

※ 括弧内は、就任日

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員 (任期 令和元年9月1日～令和3年8月31日) 令和2年8月1日一部改選
委員は五十音順

会 長	阿部芳久	九州大学大学院比較社会文化研究院教授※
副会長	岩松文代	北九州市立大学文学部教授※
委 員	井上龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役社長
委 員	緒方 泉	九州産業大学地域共創学部教授 (大学美術館長)
委 員	杉山未菜子	福岡市経済観光文化局博物館事業管理部運営課長
委 員	染川香澄	ハンズ・オン プランニング代表
委 員	富田幸光	国立科学博物館名誉研究員
委 員	針尾泰久	北九州市立赤坂小学校校長
委 員	三島美佐子	九州大学総合研究博物館准教授
委 員	山本浩三	北九州市立守恒中学校校長※

※博物館外部評価小委員会委員

(2) 開催日時

令和2年11月6日 13:30～16:00

(3) 内容

- 1) 新型コロナウイルス感染拡大対策について
- 2) 平成31年・令和元年度事業実績について
 - ア 概要
 - イ 自然史課事業実績
 - ウ 歴史課事業実績
- 3) 平成31年・令和元年度の博物館評価について
 - ア 経緯説明
 - イ 自己評価に関する説明
 - ウ 外部評価素案 (小委員会案) について
- 4) 令和2年度事業計画について
 - ア 概要
 - イ 特別展開催計画
 - 春の特別展「まるごとウマ展」、夏の特別展「THE モンスター展Ⅱ」の延期について
 - 冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き―戦国を生き抜いた武士の絆―
 - 春の特別展「実は私たち博物館収蔵庫にいるんです―普段見られない標本を期間限定紹介―
 - ウ 歴史課事業計画
 - 東アジア友好博物館交流事業
 - 東田地区ミュージアムパーク創造事業
- 5) その他 (意見交換)

3. 博物館評価

(1) 博物館評価の概要

博物館法第9条では「博物館は、当該博物館の運営状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」と定められている。

当館においては、令和元年9月に「北九州市立自然史・歴史博物館自己評価および外部評価実施要領」を定め、令和2年度（令和元年度事業対象）から実施した。

評価方法については、評価項目ごとに博物館が自己評価を行った後、博物館協議会による外部評価を実施・確定した。外部評価の実施にあたっては、博物館協議会から会長（令和2年度は会長代行）を含む3名の外部評価小委員会が、博物館からヒアリングを行い、原案を作成した。

その後開催した博物館協議会で評価内容を審議し、必要な修正を行い、外部評価を確定した。

(2) 令和元年度評価内容

1 資料収集・保管活動	自己評価 C	外部評価 B
2 調査研究活動	自己評価 B	外部評価 B
3 展示活動	自己評価 B	外部評価 B
4 教育普及活動	自己評価 B	外部評価 B
5 広報・情報発信活動	自己評価 A	外部評価 A
6 市民との連携	自己評価 B	外部評価 B
7 社会貢献	自己評価 B	外部評価 A
総合評価	自己評価 B	外部評価 B

※A 大変良い、B 概ね良い、C やや不十分、D 不十分の4段階評価。

評価指標については、定量的な指標に関しては、北九州市の目標管理制度を参考に、A 120%以上、B 120～80%、C 80～40%、D 40%以下とし、これに定性的な要件を加味して総合的に判断した。

博物館評価表および博物館協議会における協議内容については、当館ホームページ <https://www.kmnh.jp/info/conference/> に掲載している。

(3) 今後の課題等（博物館協議会での意見から）

- ① 北九州市の目標管理制度を参考にした4段階の評価方法が博物館に適合的かどうかは議論の余地がある。
- ② 展示活動に関する評価については展覧会の評価視点が明確でない。
- ③ 展示活動をとおして博物館の活動と意義を明示し、アフターコロナを見据えた訴求力の強化についても前面に出す必要がある。
- ④ 展示活動や教育普及活動について学校教科書の改訂への対応も重視する必要がある。博物館評価の結果をふまえて、博物館の運営の一層の推進と改善を図るとともに、評価の方法等についてもさらに検討・改良していく。

(4) 令和2年度評価について

令和2年度評価については新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きいため、博物館協議会において、外部評価小委員会の判断によって、評価の項目や内容を適宜変更して対応することが確認・了承された。

4. 令和2年度予算

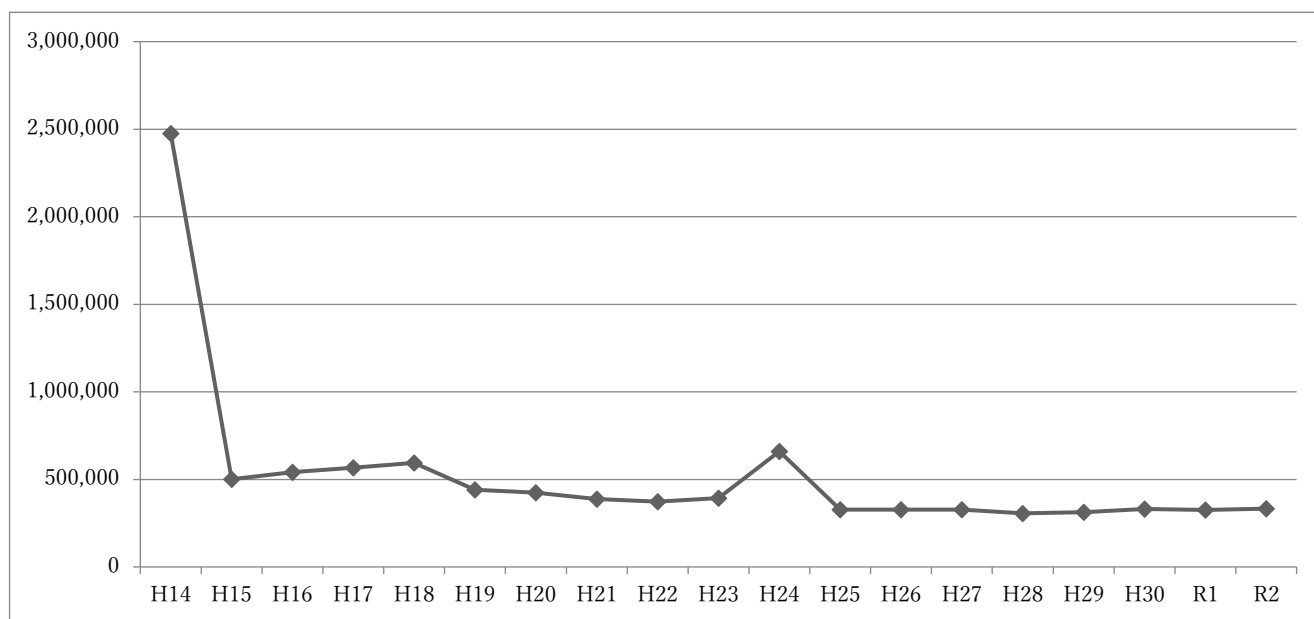
歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	165,166	企画展・特別展開催経費	60,000
社会教育施設貸付料	259	資料整備・調査研究経費	12,528
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,539	教育普及経費	2,314
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	54,803	ジオパーク活動推進経費	1,285
		博物館維持管理経費等	256,777
計	221,767	計	332,904

博物館予算(歳出)の推移 (単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3 開館		内、太陽光発電設備整備 32,000	内、太陽光発電設備整備 60,000	内、太陽光発電設備整備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			内、博物館展示・施設等改修事業 300,000					
年 度	H30	R1	R2					
予算額	330,620	325,027	332,904					
備 考								

博物館予算(歳出)の推移 (グラフ)

(単位：千円)



6. 沿革

- 昭和 50(1975)年 8月 **北九州市立歴史博物館が小倉北区内に開館 (8/1)【歴史】**
- 昭和 51(1976)年 10月 小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン料魚類化石
ディプロミスタスが発掘される【自然史】
- 昭和 53(1978)年 4月 戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置【自然史】
- 昭和 54(1979)年 1月 「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7)【自然史】
- 昭和 56(1981)年 5月 **北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2)【自然史】**
- 昭和 58(1983)年 8月 **北九州市立考古博物館が九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1)【考古】**
- 昭和 59(1984)年 9月 北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の昆虫」展を開催【自然史】
- 12月 響灘沖から巨大珪化木の引き上げ【自然史】
- 平成 5(1993)年 4月 考古博物館友の会発足【考古】
- 平成 7(1995)年 5月 展示解説ボランティア制度発足【考古】
- 平成 8(1996)年 7月 展示解説ボランティア制度発足【自然史】
- 10月 「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授)が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告
- 平成 11(1999)年 6月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
- 平成 13(2001)年 3月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
- 平成 14(2002)年 11月 **北九州市立自然史・歴史博物館が開館 (11/3)**
小野勇一館長が就任 (11/3)
開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
- 平成 15(2003)年 3月 開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37日間)
- 4月 特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 : 25,871人)
- 7月 特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
- 9月 特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
- 10月 特別展「発掘された日本列島2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
- 12月 企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
- 平成 16(2004)年 1月 企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)
- 3月 企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11 : 38日間)
- 4月 特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23 : 31日間 : 14,262人)
- 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5 : 51日間 : 50,712人)
- 10月 企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26 : 87日間)
- 10月 企画展「襤褸の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28 : 52日間)
- 平成 17(2005)年 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20 : 50日間 : 11,590人)
- 3月 特別展「なぜ？なに？動物ワールド」(3/19～5/8 : 51日間 : 26,638人)
- 7月 特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4 : 51日間 : 76,623人)
- 10月 入館者100万人達成！(10/26)
- 11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11 : 24日間 : 3,739人)
- 12月 特別展「恐竜博2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31 : 99日間 : 207,397人)
- 平成 18(2006)年 4月 企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28 : 30日間)
- 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ2006」(7/15～9/3 : 51日間 : 76,008人)
- 9月 企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26 : 65日間)
- 12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31 : 104日間 : 63,811人)

- 平成 19(2007)年
- 4月 企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6：22日間)
 - 7月 開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2：58日間：96,103人)
 - 10月 開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11：31日間：2,580人)
- 平成 20(2008)年
- 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
 - 3月 入館者200万人達成！(3/22)
企画展(開館5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
 - 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
 - 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間)
特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
 - 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
 - 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成 21(2009)年
- 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
 - 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10：71日間)
 - 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
 - 7月 特別展「恐竜ラボ2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
 - 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成 22(2010)年
- 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
 - 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
 - 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？なにをたべているのかな？」(3/20～5/30：72日間：28,327人)
 - 4月 伊藤明夫館長が就任(4/1)
 - 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
 - 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
 - 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成 23(2011)年
- 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)
入館者300万人達成！(1/15)
 - 2月 入館者300万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
 - 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)
 - 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)
 - 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」(10/7～12/11：66日間：11,493人)
- 平成 24(2012)年
- 12月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
 - 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
 - 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：25,121人)
同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
 - 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
 - 10月 特別展「いのちのたび博物館10年のあゆみ～とっておきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2：44日間：30,283人)
- 平成 25(2013)年
- 11月 開館10周年記念行事(11/3～4)
 - 12月 リニューアル工事休館(12/3～3/22)
 - 3月 リニューアルオープン(3/23)
 - 4月 北九州市制50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58日間：30,740人)
 - 7月 北九州市制50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51日間：125,805人)
入館者400万人達成！(7/25)
 - 9月 北九州市制50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」(9/14～11/4：52日間：20,990人)
 - 12月 北九州市制50周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12/21～28,1/2～2/11：49日間：24,852人)

平成 26(2014)年	3月	特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79日間：54,700人) 年間入場者 60 万人超達成！(3/31:622,701 人。過去 10 年間 [H15～24] の最多は平成 17 年度 483,495 人で、平均は 363,379 人)
	7月	特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)
	11月	特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)
平成 27(2015)年	3月	特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)
	4月	上田恭一郎館長が就任
	7月	入館者 500 万人達成！(7/4) 入館者 500 万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：102,123人)
	10月	入館者 500 万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書から iPS 細胞まで～」(10/10～1/11：90日間：20,058人)
平成 28(2016)年	1月	特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：6,535人)
	3月	特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)
	7月	特別展「恐竜博 2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)
	10月	特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)
	11月	第 1 回東アジア友好博物館巡回展「着物が語る日本の心」(11/12～12/11：29日間)その後 旅順博物館および仁川広域市立博物館に巡回(中国大連市旅順博物館 2017 年 1/10～2/5： 27 日間：9,365 人、韓国仁川広域市立博物館 2017 年 2/14～3/19:33 日間：8,727 人)
平成 29(2017)年	1月	特別展「発掘された日本列島 2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)
	3月	特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間 50,594人)
	7月	開館 15 周年記念イベント第 1 弾(7/14～9/3) 開館 15 周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人)入館者 600 万人 達成！(7/27)
	10月	開館 15 周年記念イベント第 2 弾(10/7～2/25) 開館 15 周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間： 11,436人)
	12月	開館 15 周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」 (12/23～2/25：61日間：37,227人)
平成 30(2018)年	3月	特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)
	7月	特別展「へんてこモンスター」(7/14～9/24：73日間：119,141人)
	10月	特別展「食のたび～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9：51日間：9,793人) ※中国旅順博物館企画の第 2 回東アジア友好博物館巡回展「箸と生活-中日韓の箸の文化」を拡大
	11月	東田ミュージアムパーク食の祭典 2018 (11/17～18)
	12月	特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」 (12/22～2/11：48日間：22,099人)
平成 31(2019)年	3月	特別展「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」(3/16～5/12：58日間：47,859人)
令和元(2019)年	7月	特別展「探検！両生類・は虫類の世界」(7/13～9/16：66日間：119,013人) 入館者 700 万人達成！(7/10)
	10月	特別展「九州発！棟方志功の旅-彫り起こされた足跡と交流-」 (10/12～12/1：51日間：8,456人)
	12月	特別展「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」 (12/21～2/11：49日間：23,154人)
令和 2 (2020)年	2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(2/28～5/18)
	4月	伊澤雅子館長が就任(4/1)
	5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館(5/19～5/29) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(5/30～6/21)

- 令和3(2021)年
- 6月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館 (6/22～8/7)
 - 8月 Web 事前予約システム導入 (8/3～)
 - 1月 特別展「名刀「博多藤四郎の輝き」—戦国を生き抜いた武士の絆—」
(1/2～2/14 : 44日間 : 6718人)
 - 3月 特別展「わたしたち『収蔵庫』にいるんです—あつめる まもる つなげる—」
(3/6～4/4 : 30日間 : 17,503人)

7. 入館者の状況

※平成14年度は、11/3～11/10 無料期間 51,905 人を累計に含む。

※平成24年度は、12/3～3/22 が改装工事で休館。

※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2/28～3/31 休館。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4/1～5/18、5/30～6/21 は休館。また5/23～8/2 は土日祝日を休館。

入館者 総数 (人)	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
	24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
	25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
	26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
	27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
	28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
	29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
	30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100%)	6,890,477
	R1	205,887 (45.5%)	12,818 (2.8%)	122,164 (27%)	111,994 (24.7%)	452,863 (100%)	7,343,340
2	67,590 (49.1%)	5,748 (4.2%)	25,374 (18.4%)	39,024 (28.3%)	137,736 (100%)	7,481,076	

8. 視察受け入れ状況

令和2年度 視察訪問受け入れ状況

No	月日	申請者	訪問者・団体	人数
1	5月29日	広交観光	広交観光新人研修参加者	5
2	12月22日	産業経済局企業立地支援課	株式会社みらい創造機構職員ほか	6
3	2月19日	港湾空港局クルーズ・交流課	港湾空港局クルーズ・交流課職員ほか	7
4	3月12日	産業経済局企業立地支援課	一般社団法人地域活性機構・株式会社 musuby 視察者ほか	4
5	3月15日	港湾空港局空港企画課	首都圏の旅行社	10

合計 32

9. 広報・報道実績

(1) 令和2年度 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数

17件

(2) 令和2年度 特別展等関連広報・報道状況記録

1) 春の特別展「まるごとウマ展」関連（R2.4.1分から）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止

ア) 新聞	2誌 2件	エ) ラジオ	0社 0件
イ) 雑誌等	0誌 0件	オ) インターネット	0社 0件
ウ) テレビ	0社 0件		

2) 夏の特別展

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未開催

3) 秋の特別展

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未開催

4) 冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き—戦国を生き抜いた武士の絆—」関連

ア) 新聞	3誌 115件	エ) ラジオ	2社 65件
イ) 雑誌等	12誌 21件	オ) インターネット	12社 13件
ウ) テレビ	4社 63件		

5) 春の特別展「わたしたち『収蔵庫』にいるんです—あつめるつなげるまもる—」関連 (R3.3.31分まで)

ア) 新聞	3誌 100件	エ) ラジオ	2社 46件
イ) 雑誌等	7誌 9件	オ) インターネット	8社 8件
ウ) テレビ	1社 35件		

6) その他（特別展以外）

ア) 新聞 4誌 36件

『いのちのたび』だからできること 『いのちのたび博物館』伊澤雅子さん×毎日新聞論説委員
元村由希子」（毎日新聞）

「絶滅の海鳥『ペンギンモドキ』骨の化石2新種と発表 いのちのたび博物館学芸員ら」
(読売新聞、毎日新聞、西日本新聞) ほか

イ) テレビ 6社 20件

「アフリカゾウはく製の修復作業の公開」(FBS、KBC、RKB)

「プロトテルム科鳥類の新種報告に伴う実物特別展示」(FBS、KBC、NHK、RKB) ほか

(3) 令和2年度 ホームページアクセス数

397,155件

(4) 令和2年度 SNS（twitter、facebook、instagram、YouTube）での情報発信数

385件

10. 新型コロナウイルス対策

はじめに

令和2年の初めから始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、博物館や美術館といった文化施設にも大きな影響を与えた。当館も感染防止に多くの時間や労力を費やすことになった。ここでは、令和2年度末までに当館が実施した感染対策について記す。なお、本稿は全国科学博物館協議会第28回研究発表大会の発表内容にその後の経過などを追補したものである。

北九州市の感染状況と博物館の対応

北九州市では令和2年3月下旬から新型コロナウイルス感染症の感染が拡大した。その後いったん収束したが、5月下旬から6月上旬にかけて再拡大が生じた。この影響により当館は2月28日(金)～5月18日(月)まで臨時休館し、5月30日(土)～6月21日(日)に再び臨時休館した。なお、開館後も5月19日(火)～5月29日(金)まで、6月22日(月)～8月7日(金)までの間は平日のみの限定開館とし、混雑が見込まれた土日祝日の開館は館内の人数コントロールを可能にする時間制ウェブ予約システムの導入（8月3日(月)）を待った。臨時休館は延べ104日間、限定開館は延べ42日間に及んだ。また、エンバイラマ館、休憩ルーム、幼児プレイルーム、子どもミュージアムを閉鎖した状態での再開となった（エンバイラマ館は11月4日(水)から再開）。

博物館の再開に向けた対応は、最初の臨時休館前後からワーキンググループ方式で行った。国や日本博物館協会などのガイドラインを参考に、北九州市参与（危機管理）の医師1名から助言を受け、「三つの密（密閉、密集、密接）」の防止を基本方針とした感染対策を実施した。当初のワーキンググループは、普及課、自然史課、歴史課から1～3名ずつ選ばれた職員で構成し、主に館内における感染対策を検討実施した（図1）。6月には対策の特性や範囲分けられた5つのワーキンググループと1名の統括者からなる後期ワーキンググループに再編し（図2）、全職員を各ワーキンググループに5～7人ずつ割り振って、課題の整理や対策の検討及び実施に取り組んだ。

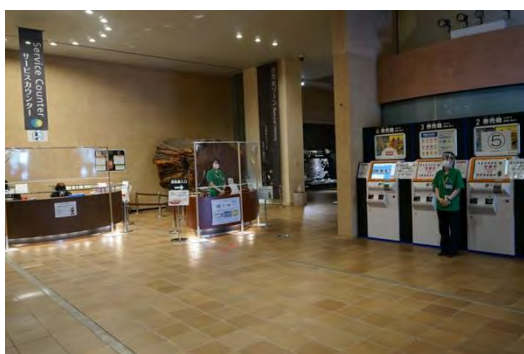


図1. 館内感染対策の例（透明シート）

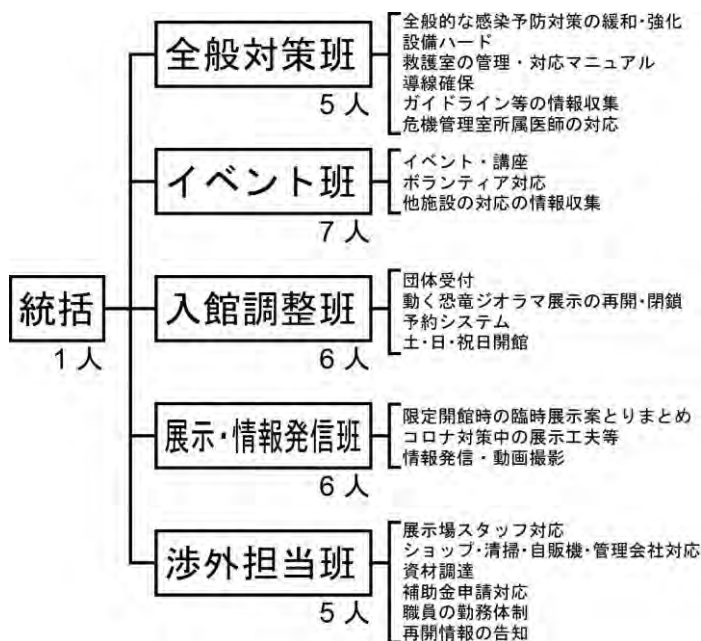


図2. 後期ワーキンググループの構成と役割

全般対策班

全般対策班は、救護室などの管理対応マニュアルの作成、来館者の動線の検討、感染対策の緩和と強化の調整などを行った。具体的な感染対策は次のとおり。

- ・ 団体専用入口を入口専用、一般出入口を出口専用とし、館内の動線を基本的に一方通行とした。
- ・ 入口に検温所と記名所を設置したほか、入口から検温所や記名所を経て券売機に至る動線に来館者同士の距離確保を促す表示（恐竜の足型マーク）を設置した（図3～5）。
- ・ サービスカウンターなどに交流員と来館者の密接を避けるための透明シートを設置した（図1）。
- ・ 休憩ルームを臨時救護室とし、ベッドを備えた3区画と予備ベッド1台を設置した（図6）。
- ・ 館内27ヶ所に消毒液を設置した（図7）。

再開当初はギャラリー館も入館待ち列対応に使用された。その後、時間制ウェブ予約システムを導入し入館者数を調整して、10月28日(水)から従来の出入口を対面通行とした。現在、手指消毒、検温（体調不良者には帰宅を促す）、予約確認（予約のない来館者は記名所にて登録）、チケット購入という入口動線を確立した。臨時救護室は、体調不良者の発生頻度が非常に低いことから9月3日(木)に撤収された。このような感染対策の実施および変更は、北九州市参与（危機管理）の医師の指導のもとで慎重に行った。

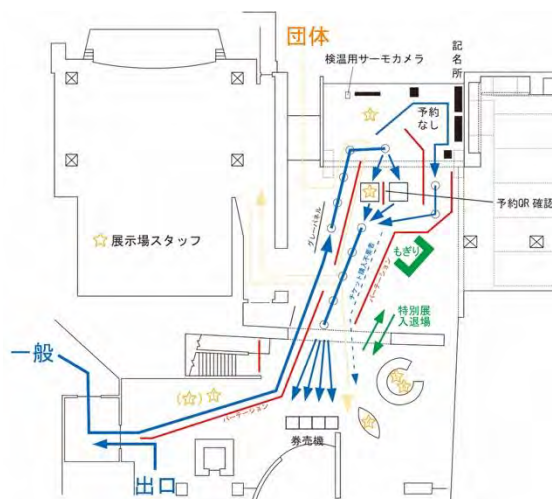


図3. 入口付近の動線（令和3年1月時点）

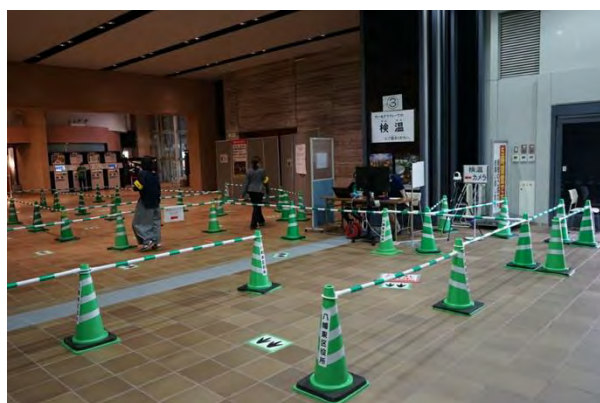


図4. 入口の動線と検温所

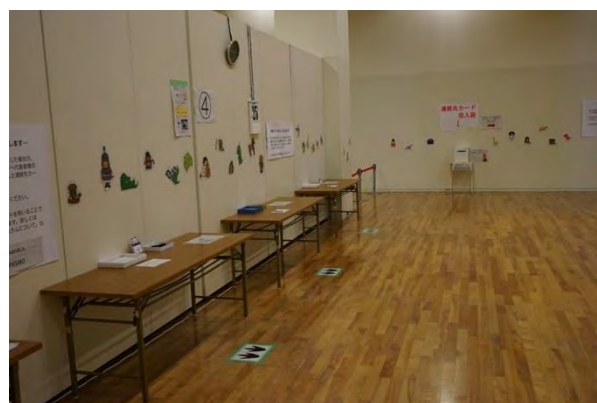


図5. 記名所



図 6. 臨時救護室

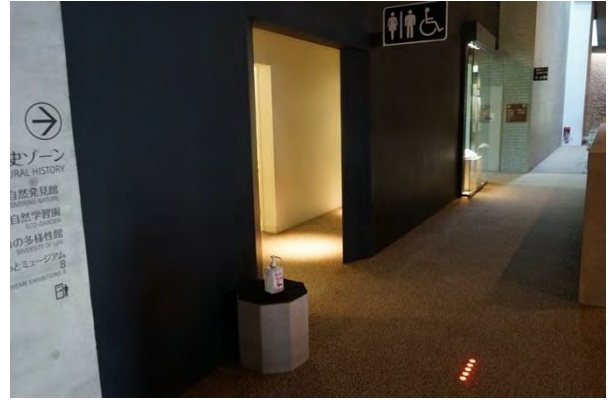


図 7. 消毒薬の設置状況

イベント班

イベント班は、講座などのイベントにおける感染対策を担当し、北九州市参与（危機管理）の医師の指導のもと、使用する部屋の構造や特徴を考慮して入室人数や着席位置をマニュアル化した。また、シーダー活動における感染対策も担当した。

主に講義形式のイベントで使用される講座室では、参加者全員が同じ方向を向いている状況を想定して入室人数上限を 28 人とし、隣席との間に一定の距離を保って着席することとした（図 8）。主に作業形式のイベントで使用される実習室については、参加者が対面する状況を想定して入室人数上限を 24 人とし、向かい合う席は真正面にならないよう着席することとした（図 9）。また、講座室および実習室の出入口に消毒液を設置して参加者に手指消毒を促すほか、使用した用具の消毒を徹底することとした。講座はこうした感染対策を行なった上で 9 月から一部再開した。一方、シーダー活動は令和 2 年度を通じて全面中止となった。今後どのような形でシーダー活動を行うかを検討中である。

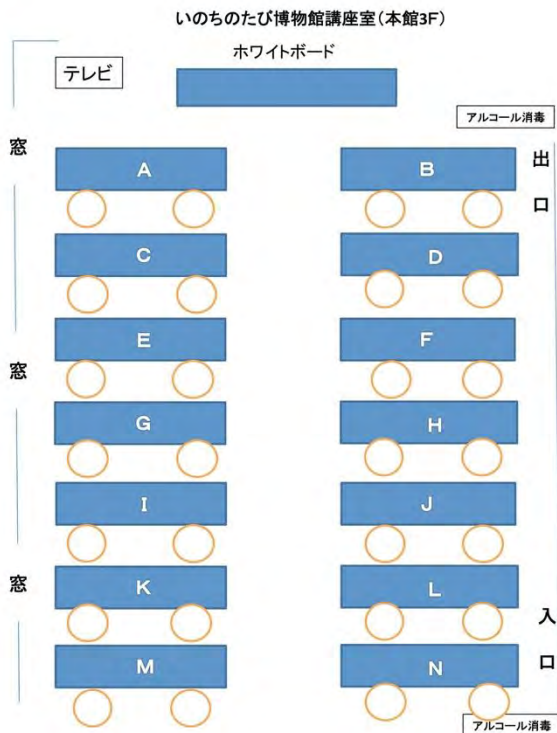


図 8. 講座室の着席方法

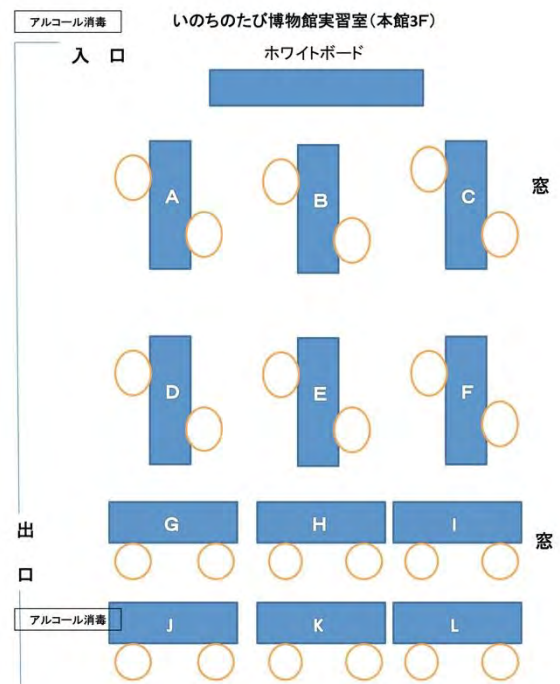


図 9. 実習室の着席方法

入館調整班

入館調整班は、入館者数の管理調整を担当し、入館者数上限の設定、時間制ウェブ予約システムの構築（図 10）、団体受付方法の検討、開館日の調整などを行った。1日あたりの入館者数上限は、次のように算出した。

- ・ 同時滞在可能人数は、入館者が立ち入ることができる館内展示室の面積を半径 1mの円で割って、 $1,815 \text{ m}^2$ （常設展通路面積） $\div 3.14 \text{ m}^2$ （1人の占有面積） $= 578 \text{ 人} \approx 600 \text{ 人}$
- ・ これまでの来館者傾向から滞在時間を1人2時間と想定した場合、1時間当たりの入館可能人数は 600 人 （同時滞在人数） $\div 2$ （滞在時間） $= 300 \text{ 人}$

この1時間当たりの入館可能人数をもとに、時間制ウェブ予約システムの運用方法を次のように決定した。

300 人 （1時間当たりの入館可能人数） $\times 7$ コマ（予約時間枠数） $= 2,100 \text{ 人}$

時間制ウェブ予約システムの運用は、8月3日(月)入館分から開始した。予約のできない来館者がいることを想定し、ウェブ予約 250 人、当日整理券 50 人を基本として状況に応じて1時間あたりの入館可能人数を調整した。また、10月23日(金)から時間制ウェブ予約システムに混雑状況をリアルタイムで表示する機能が追加された。団体受入は、再開当初には中止されていたが、ウェブ予約枠に組み込む（一般入館者と団体入館者の合計をウェブ予約人数の範囲に収める）ことで8月から再開された。当初は平日のみの受け入れとし、昼食場所の提供は行わなかったが、のちに学校団体に限り、消毒・換気を徹底したうえで、昼食場所の提供も開始した。

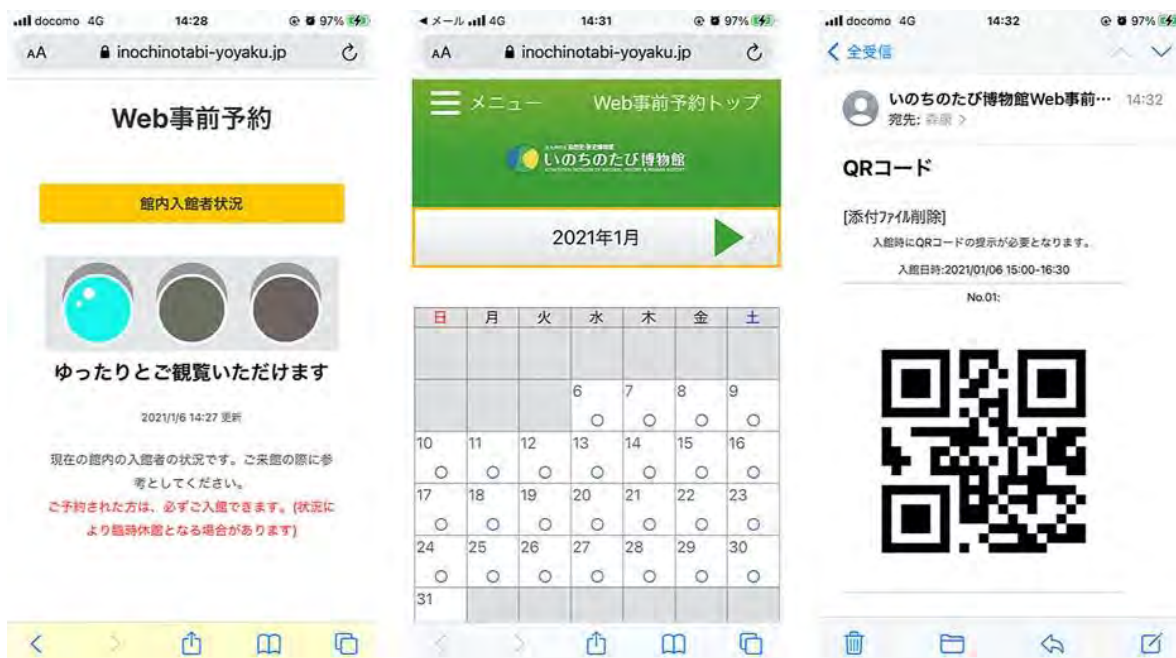


図 10. 時間制ウェブ予約システムの画面（スマートフォン）。左から、混雑状況の表示、来館日の入力、予約 QR コード

展示・情報発信班

再開後の展示運用および臨時休館中の情報発信を担当した。展示運用では、再開当初、ハンズオン、タッチパネル、スタンプラリーなど、来館者が触れる展示物を全て中止した（図 11）。その後、北九州市参与（危機管理）の医師の指導のもと、手指消毒を促すパネルやステッカーを設置した上で、10月からハンズオン（実物標本に限定）およびタッチパネルを順次再開し、3月にスタンプラリーを再開した（図 12）。情報発信では、北海道博物館などが進める「おうちミュージアム」に連動してホームページ上に「おうちでのちのたび博物館」を新設し、YouTube 動画 34 本（学芸員による解説など）を配信したほか（図 13・表 1）、塗り絵 16 種類を公開した。また、Twitter および Facebook においてクイズ「博物館からの挑戦状」12 回 30 本を配信した（図 14）。



図 11. タッチパネルの閉鎖状況



図 12. ハンズオンの再開状況



小倉藩主 小笠原忠真
1,309 回視聴・2020/07/03



化石のクリーニング
710 回視聴・2020/05/28

図 13. YouTube 動画の例



午前11:09・2020年9月2日・Twitter Web App

115 件のリツイート 1 件の引用ツイート 163 件のいいね

図 14. クイズ配信の例

表 1. 配信した YouTube 動画一覧

公開日	タイトル	備考
2020/4/30	自然発見館 曾根干潟底生生物編	
2020/5/1	自然学習園 冬の鳥類編	
2020/5/1	アースモール ナイト編	
2020/5/11	生命の多様性館 モルフォチョウ編	
2020/5/14	ティラノサウルスの頭骨を並べてみた	
2020/5/18	動く植物 アサガオ編	
2020/5/21	昭和30年代の八幡製鉄所社宅	
2020/5/28	化石のクリーニング	
2020/5/29	クイズ アンモナイト編	
2020/6/3	歴史ゾーン「江戸時代の北九州」 江戸時代の小倉城をみてみよう！	
2020/6/5	布を作る道具と小倉織	
2020/6/10	アンモナイトレプリカづくり編	
2020/6/12	ソーシャル・ディスタンス@いのちのたび博物館	
2020/6/17	自然学習園 春～秋の鳥類編	
2020/6/26	学芸員のお仕事 トド解体編	
2020/7/3	小倉藩主 小笠原忠真	
2020/7/10	紫川のサケ	
2020/7/17	大興善寺金剛力士像（複製）	
2020/7/24	自然学習園にアナグマ出現！	
2020/7/31	歴史ゾーン 弥生住居編	
2020/8/7	小さな化石 平尾台	
2020/8/8	【いのちのたび博物館】Web事前予約の手順 【いのちのたび博物館】Web事前予約の確認・キャンセル・変更	来館チュートリアル
2020/8/12	東田お散歩MAP	
2020/8/14	ぼけっと企画展 「檻褌一庶民生活史研究家 堀切辰一の遺したもの」	
2020/8/21	意外なところにある化石	
2020/8/28	地球の形成 月の石編	
2020/9/4	檻褌 庶民生活史研究家 堀切辰一氏について	
2020/9/24	化石の野外調査	
2020/10/4	草むらにすむカヤネズミ	
2020/11/6	クイズ 切り身編	
2020/12/4	アジアを渡る猛禽 ハチクマ	
2020/12/11	わくわくタイムトラベル いま むかし展	
2021/1/14	ご来館の流れ～入館チュートリアル～	来館チュートリアル

渉外担当

博物館に係わる団体（展示交流員、ミュージアムショップ、清掃業者、管理業者など）との渉外、職員の勤務体制の管理、資材調達、再開情報告知を担当した。

また、令和2年度文化芸術振興費補助金（文化施設の感染症防止対策事業）の助成を受け、感染対策費用により、空調工事、時間制ウェブ予約システム導入、サーモカメラ導入が実施された（図15）。



図15. サーモカメラ

おわりに

感染対策をワーキンググループ方式で機動的に実施した結果、当館は比較的スムーズに再開の体制を整えることができた。また、北九州市参与（危機管理）の医師の指導は、対策のもれや必要以上の対策を避ける上で非常に参考になった。感染対策の体制は再開後も継続して運用しており、混乱なくスムーズかつ安全に来館者を迎えることができている。今後も新型コロナウイルス感染症と向き合う日々が続くであろうことから、長期的な視点での対策を臨機応変に更新していく体制が重要と思われる。

（森康）

1 1. 特別展

(1) 冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き—戦国を生き抜いた武士の絆—」

期 間：令和3年1月2日（土）～令和3年2月14日（日）
44日間

会 場：ギャラリー館

入 場 料：大人 600 円（団体 480 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、
小・中生 100 円（同 80 円）、未就学児無料

観覧者数：6,718 人

担当学芸員：日比野利信・富岡優子・守友 隆

主 催：博多藤四郎展実行委員会
（北九州市立自然史・歴史博物館、毎日新聞社）

助 成：文化庁 令和2年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展
覧会支援事業」（「文化財刀剣を活用した地域の歴史と日本
文化の紹介のための特別展開催事業」）

後 援：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

特別協力：立花家史料館、福岡市博物館、朝倉市秋月博物館

協 力：到津八幡神社、青梅市教育委員会、九州大学附属図書館附設記録資料館、宮内庁三の丸尚蔵
館、甲宗八幡神社、香徳寺、古心寺、福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会、福岡県立伝習館
高等学校、福岡県立図書館、福岡市美術館、福巖寺、福聚寺、文化庁、みやこ町歴史民俗博
物館、妙楽寺、柳川古文書館、吉川英治記念館

題 字：栗原光峯

概 要

福岡藩2代藩主黒田忠之が小倉藩初代藩主小笠原忠真に贈った短刀「博多藤四郎」（国重文、文化庁蔵）を軸に、ポスト戦国期における藩の確立（＝地域の歴史）と、武士や武具の行方（＝日本の文化）を総合的に明示するため、歴史と美術、博物館学芸員と大学教員、大名家資料所蔵機関が協力して開催した。

内容構成 序幕 豊臣から徳川の世へ—それぞれの大阪の陣—

第1幕 戦国次世代の挑戦

1 「御家」を継ぎ、「藩」を創る 2 島原・原城を攻め落とす
3 長崎を警備し、国を守る

第2幕 「博多藤四郎」と仲間たち

1 「名刀」の誕生—享保名物帳— 2 藤四郎吉光の名刀三選揃い踏み
3 「家宝」の形成

終幕 泰平の世へ—武士と武具の行方—

展示作品

藤四郎吉光の短刀（博多藤四郎【重文】、立花家伝来【国宝】、三笠宮旧蔵）小倉・福岡・秋月・柳河藩の初代・2代藩主の甲冑・肖像画・古文書【重文含む】、小笠原忠真の娘市松姫が黒田光之に嫁いだ際の嫁入り道具（源氏物語入り箆笥）、秋月藩主が作らせた嶋原陣図御屏風（戦闘図）、島原に出陣した宮本武蔵の自筆書状、徳川吉宗お気に入りの「筑州信国源正包」の刀と脇差 など 約100点

関連事業

- ・講演会 1月16日（土）13:30-15:30 講師：植野かおり氏（立花家史料館館長）
演題「大名道具のなかの刀剣」 入場者数：80名
- ・ギャラリートーク配信 1月23日（土）から配信開始
- ・書道パフォーマンス 1月2日（土）講師 栗原光峯氏（書道家）
- ・書初めワークショップ 1月10日（日）講師 栗原光峯氏（書道家）
- ・NCB 街かどギャラリー（西日本シティ銀行北九州営業部1階ギャラリーに開設されている市の情報発信スペース）で特別展の内容を紹介するとともに、「小物の工芸美—博物館コレクションより—」として刀装小物を展示するミニ企画展を実施。12月1日（火）～1月31日（金）



特記事項

①特別展として初めて展示解説の多言語化を実施した。

解説パネル+展示品キャプション：日本語解説要約文の英語訳を併記した。

ポケット学芸員（アプリ）：解説パネルの全てと展示品キャプションの 1/4 程度について、4ヶ国語併記で実施した。

展示解説リーフレット：上記の原稿をもとに編集し、適宜英語訳を掲載した。

ギャラリートーク：日本語音声と4ヶ国語字幕解説入り動画を配信した。

②他施設の特別協力のもと歴史と美術、アカデミズムとミュージアムの連携を図った。

立花家史料館による指導・監修（刀剣や甲冑などの展示や解説の充実）

特別協力機関の担当者と近世史・藩政史研究者による協力者会議を2回開催した。

調査等

2月3日～2月14日の12日間、298人回答。①ストーリー・解説、②展示方法について、5段階評価で実施した。

① 満足 182 (61.1%)、やや満足 75 (25.2%)、ふつう 34 (11.4%)、やや不満 0 (0%)、不満 0 (0%)

② 満足 159 (53.4%)、やや満足 79 (26.5%)、ふつう 46 (15.4%)、やや不満 7 (2.3%)、不満 0 (0%)

意見：博多藤四郎ほか吉光の短刀3口と「嶋原陣図御屏風」の解説動画に対する好印象が強く、ストーリーや解説がわかりやすいという意見も多かった。吉光以外の刀が見づらい、刀の展示位置が低い、展示動線がわかりにくい、古文書には現代語訳が欲しい、椅子がなくて休めないなどが複数回答。

(SNS) 60件の投稿を確認、会期中の投稿は39件。ゲームアプリ「刀剣乱舞」のファンを中心に好意的な意見が見られた。

成果と課題

コロナ禍特に1月の3連休の一都三県の緊急事態宣言と北部九州の寒波、翌週からの福岡県ほかの緊急事態宣言の影響を受けて、入場者数は想定を大きく下回った。しかし「回遊率」は約35%で、これまでの歴史系特別展より倍増した。

刀剣などの武具の意味や時代背景を明示して、これまでの武具や武将をテーマとする展覧会とは異なる視点で、「地域の歴史」と「日本の文化」を合わせて明示するという本来の目的は果たせたと思う。

当館として初めて国宝や国重文の刀剣を借用・展示した。展示方法や照明についても子細に検討し、工夫した。また特別展として初めて展示解説の多言語化に取り組んだ。これらは今後につながる成果となった。しかし吉光の短刀以外の刀剣の展示方法、会場の展示動線、古文書の現代語訳、展示解説における歴史と美術の総合など課題も少なからず残った。

(日比野利信)



第1幕 黒田家と小笠原家の歴史



第2幕 藤四郎吉光の短刀3口の展示

(2) わたしたち『収蔵庫』にいるんです—あつめる まもる つなげる

期 間：令和3年3月6日（土）～令和3年4月4日（日）

30日間（次年度への継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 300 円（団体 240 円）、高・大生 200 円（同 160 円）、

小・中生 100 円（同 80 円）、未就学児無料

観覧者数：17,503 名 ※会期を通しての総入場者数

担当学芸員：中西希・太田泰弘

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館、毎日新聞社

概 要

博物館は常設展示や特別展に注目が集まるが、博物館の最重要任務であるモノを集め、守り、未来へつなげていくことを紹介するため、「収蔵庫」に焦点を当てた展示を行った。自然史課学芸員 11 名がそれぞれの専門分野において、収蔵庫に保管されている貴重なイチョン標本を「自然史財」と位置づけ展示した。また、展示標本には科学的解説に加え、それぞれの資料が博物館に収蔵されるまでのストーリーと博物館を中心とした人々と自然のつながりを紹介した。今回はコロナ禍での特別展開催のため、十分な空間を確保するため順路を設けず島状展示を採用し、来館者が心地良く感じられる空間を探し好きな展示から観られるようにした。さらに、解説パネルの内容は全て「ポケット学芸員」を用いてスマートフォンから読めるようにし、ポケット学芸員だけで読める追加情報も写真と共に掲載した。

主な展示標本

国内では当館のみ所蔵しているマジュンガサウルス全身骨格レプリカ、当館収蔵庫に保管されていた化石から新種として記載されたヒキダコウモリダコ生体復元模型、2019 年に北九州市では初確認となったコビレゴンドウ交連骨格標本、世界最大の甲殻類タカアシガニ剥製、北九州市から絶滅した巨大なオニバス、絶滅したヘラチョウザメ液浸標本と巨大なカラチョウザメ剥製、100 年以上前から北九州市において鉱山技師の育成に活用されてきたクランツ標本、3 億年前に北九州市が暖かい海であったことを伝えるフズリナ化石、小さな体で巨大な巣を作るカササギ、学校標本として保管されていたオオサンショウウオなどを展示した。また、博物館の裏側を紹介する、昆虫類の未整理標本や学芸員のマル秘ツール、トピック解説パネルを展示し、大型標本作製作業の紹介にトドやナガスクジラの解体映像を大型スクリーンに投影した。

関連事業

会期中通して「集めよう『スペシメンカード』！！」というイベントを開催した。特別展に展示している標本と関連する常設展示標本を紹介し、標本解説と写真を掲載したカード（スペシメンカード）を特別展会場と常設展会場に各 6 か所ずつに配置した。12 枚全てのカードを集めた来館者には、先着 1,000 名にオリジナル台紙をプレゼントした。また、サテライト展示として令和2年2月15日～3月31日の期間に、西日本シティ銀行・NBC 街かどギャラリーにおいて収蔵庫から小型の標本（シーラカンス鱗、アンモナイト、陸ガニ剥製など）と特別展の概要説明パネルを展示した。

(中西希)





特別展・常設展会場で配布したスペシメンカード



タカアシガニ剥製



マジュンガサウルス骨格標本レプリカ



コビレゴンドウ骨格標本と大画面動画

12. 企画展・その他展示

(1) 福田屋と小倉銘菓「鶴の子」

期 間：令和2年5月19日（火）～7月26日（日） 34日間
※期間中、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
5/30～6/21、また期間中の土日祝は休館。

会 場：ぼけっとミュージアム No.9～11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：上野晶子・富岡優子

概 要

福田屋は江戸時代から続いた小倉の菓子商で、銘菓「鶴の子」などを製造・販売した。昭和52年（1977）に閉店し、福田屋に伝わる資料は博物館に寄贈され、453件にのぼる資料群は当館を代表する「福田屋コレクション」といえるものである。このうち、令和元年度に新たに寄贈された資料の中には棟方志功、杉田久女など店主奥井忠孝との交流のあった資料が多く含まれていることから、福田屋の創業史及び菓子がつないだ北九州ゆかりの文化人との交流を紹介した。併せて奥井忠孝の兄、忠義が撮影した古写真も展示した。

主な展示内容

第1章「小倉のまちと福田屋」では、江戸時代御用菓子商であった福田屋が小笠原藩主へ献上した菓子が「鶴の子」と名付けられ、明治時代以降市井への売り出しが許可され小倉の銘菓となったことを紹介し、看板や舌代、菓子木型などを展示した。また、大正5年には小倉市から大正天皇への献上品の一つに用いられたことを紹介し、当時の製造風景や献上品の写真などを展示した。

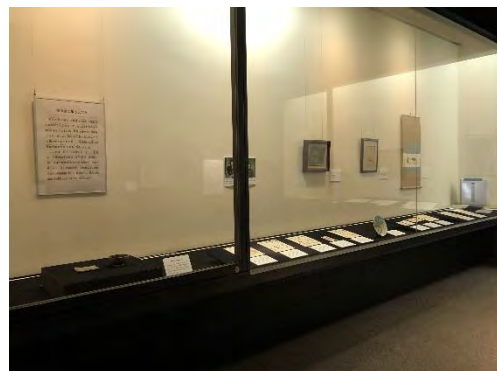
第2章「「鶴の子」を愛した人びと」では、福田屋最後の店主となった奥井忠孝と交流のあった20世紀を代表する板画家棟方志功の自筆画をはじめ、俳人杉田久女の色紙、小説家火野葦平・岩下俊作・劉寒吉の色紙、画家平野遼自筆の年賀状などを紹介。中でも杉田久女の夫・宇内の直筆書簡、糸園和三郎の手掛けた包装紙の原画は新発見の資料として特に注目された。

第3章「古写真でたどる小倉のまちと人びと」では、店主奥井忠孝の兄奥井忠義が撮影した小倉近辺の風景写真を展示した。奥井忠義は大正12年（1923）に21歳の若さで亡くなったが、カメラが高級品であった大正時代に多くの写真を残しており、小倉の街並みや子供たち、働く人々など、大正時代の日常風景が写されている。なお、3章の展示は平成25年度から平成27年度にボランティアを中心に行った古写真のデジタル化および調査の成果報告を兼ねている。

（上野晶子）



第1章「小倉のまちと福田屋」展示風景



第2章「「鶴の子」を愛した人びと」展示風景

(2) 襤褸^{らんる} —庶民生活史研究家堀切辰一が遺したもの—

期 間：令和2年8月1日（土）
～11月1日（日） 91日間
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
8/1～8/2の土日祝は休館。

会 場：ぼけっとミュージアム No.9～No.11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：上野晶子・日比野利信

概 要

庶民生活史研究家である堀切辰一氏は、庶民が用いた衣類・布類を収集し、その生活実態を探究するという独自の研究分野を開拓した。堀切氏は収集資料のうち3500点を博物館へ提供するとともに、各資料に詳しい解説を付す作業を最晩年まで続けられた。博物館では、堀切氏のコレクションを時代布コレクション「襤褸」として、目録の刊行、展覧会の開催などをおこなってきた。昨年惜しくも94歳で亡くなった堀切氏への追悼の意を込め、厳選した資料や著書、執筆原稿などを展示し、約40年にわたる研究を振り返り、堀切氏が「遺したもの」をあらためて考えるものである。

主な展示内容

第1章「堀切辰一のまなざし」では、高度経済成長後の生活の変化によって廃棄される着物類を危惧し、1980年代に全国をまわって布を収集、聞き取り調査を行った堀切氏の研究生活を紹介した。その研究成果の一部は著書『布のいのち』『布の記憶』などにまとめられ、そこで紹介されている腰巻、袴纏を展示した。また、堀切氏が主宰した庶民時代裂研究会の会報及び添付された布資料や、小説家田辺聖子氏や江戸文化研究者・法政大学名誉教授田中優子氏らとの交流を紹介した。

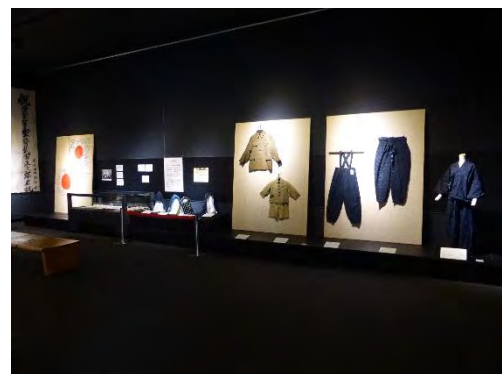
第2章「襤褸とぼろ」では、堀切氏がこだわった「らんる」と「ぼろ」の違いに注目し、庶民が用いた継ぎ接ぎの多い着物や、大切に保管された布端の束や裂き織り用の布などを展示した。堀切氏は古く小さな布であっても、「ぼろ」が持つ「役に立たない」という意味は必ずしも一致しない、という信念を持ち、自身のコレクションを「襤褸（らんる）」と名付けた。

第3章「布がかたる戦争」では、堀切氏が兵士として中国の戦場に出征した際の経験談や戦後の収集活動で得た戦争体験の談話をまとめた著書『布がかたる戦争』を手がかりとして、戦地や銃後で用いられて、人びとの体験や思いが込められた布や着物をとおして、戦争とはどのような出来事だったかを考察した。

(上野晶子)



第1章「堀切辰一のまなざし」展示風景



第3章「布がかたる戦争」展示風景

(3) わくわくタイムトラベル いま むかし—道具とくらしのうつりかわり—

期 間：令和2年11月7日（土）
 ～令和3年1月3日（日） 54日間
 ※12/29～1/2は休館

会 場：ぼけっとミュージアム No.9～11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：上野晶子・中西義昌

担当 MT：本村英祐・森田伸代・常松秀明・藤野久信

概 要

小学校3年生社会科単元「わたしたちの市の歩み」のうち「かわる道具とくらし」の学習支援を目的とした展覧会で、道具やくらしのうつりかわりについて紹介するものである。当館では例年秋から冬にかけてこの展示を行っているが、今回は部屋ごとに「衣・食・住」の3つのテーマにそって道具類を分類して展示した。例年行っている展示室内でのハンズオンは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。展示による学習効果を補足するツールとして、新たに「展示ガイド」を作成し、衣食住の道具写真を用いた年表化、イラスト化した電化製品が普及する以前のくらしと現代のくらしを比べる「くらしの違い探し」を掲載した。

主な展示内容

第1章「衣のうつりかわり」では、大正頃までの着物を中心とした衣生活から昭和以降の洋装化への変化、家庭用ミシンの普及、裁縫道具・アイロン・洗濯道具の変遷などを紹介した。特に電気洗濯機は「三種の神器」の一つとされ、家事の負担を軽減し、生活の変化に大きな影響を与えた。

第2章「食のうつりかわり」では、かまどを中心とする調理から炊飯器などの電化製品の普及による台所の変化を紹介するとともに、食の変遷の一例として、学校給食のサンプルを展示した。また、明治時代以降、ちゃぶ台の普及により箱膳などを用いる銘々膳方式から家族が食卓を囲む様式への変化や、電気冷蔵庫の普及により食品の買い置きやまとめ買いが可能になったことを紹介した。

第3章「住まいの道具のうつりかわり」では、日本の伝統的な家屋での四季を快適に過ごすための道具類や、テレビなどの電化製品の普及によるくらしの変化を紹介した。道具は素材・形の変化により、照明器具のように利便性・安全性が高められたものや、ラジオやテレビなどのような家庭での娯楽の中心的役割を果たしたものがある。

(上野晶子)



第1章「衣のうつりかわり」展示風景



展示ガイド

(4) 「世界遺産登録5周年記念 三池港と洞海湾—「明治日本の産業革命遺産」企画展3—」

期 間：令和3年1月9日（土）
～令和3年2月7日（日）31日間
会 場：ぽけっとミュージアム No.9～11
入 場 料：常設展入場料で観覧可能
主 催：「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産
連絡会議
共 催：大牟田市石炭産業科学館、北九州市立自然
史・歴史博物館、九州歴史資料館、中間市
教育委員会
担当学芸員：日比野利信



概 要

2015年にユネスコの世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄製鋼・造船・石炭産業」のうち特に福岡県の三池炭鉱と八幡製鐵所の構成資産に関わる歴史と世界遺産としての価値を紹介する巡回展の第3回。

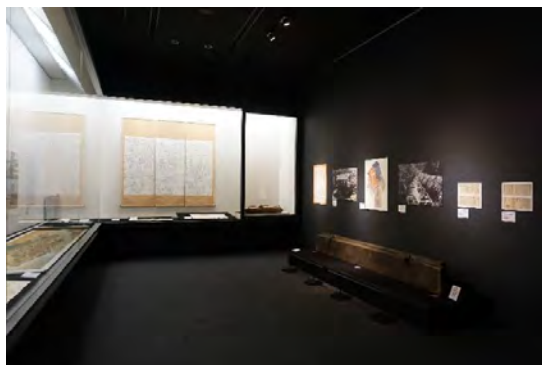
第1回「鉄都八幡」、第2回「炭都三池」に続いて、三池炭鉱で産出される石炭の積出港であった三池港、また筑豊の石炭積出港であり、官営八幡製鐵所と密接不可分に関わる洞海湾の2つの海・港に注目し、その歴史と役割、さらに大牟田や八幡の都市発展について紹介した。

主な展示資料

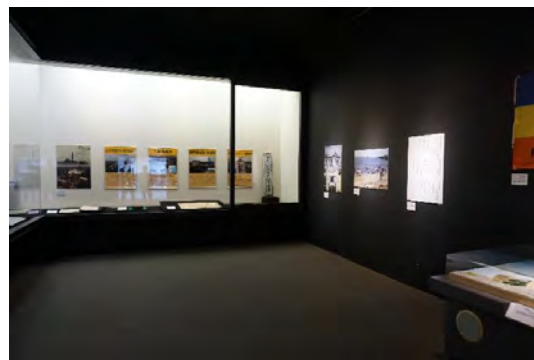
洞海湾 若松市鳥瞰図及び戸畑市鳥瞰図原画（昭和8年）、八幡市鳥瞰図（昭和8年）（当館蔵）
堀川拓本、中間唐戸の水門板木（中間市教育委員会蔵）、川ひらた模型（芦屋歴史の里蔵）

三池港 三池炭鉱之図、大牟田市鳥瞰図、グリーンハート、三池港模型（大牟田市石炭産業科学館）

特記事項：北九州市港湾空港局クルーズ・交流課の協力により、土木遺産「若松港築港関連施設群」について合わせて紹介した。
(日比野利信)



ぽけっとミュージアム No. 9 洞海湾



ぽけっとミュージアム No. 10 三池港



ぽけっとミュージアム No. 11 世界遺産及び土木遺産

(5) 「山本作兵衛コレクション ユネスコ「世界の記憶」登録 10周年記念交流 キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」

期 間：令和3年3月16日（火）
～令和3年4月18日（日）34日間
会 場：ぼけっとミュージアム No.9～10
入 場 料：常設展入場料で観覧可能
主 催：田川市石炭・歴史博物館、
北九州市立自然史・歴史博物館
担当学芸員：朝鳥和美（田川市石炭・歴史博物館）、
日比野利信（北九州市立自然史・歴史博物館）

概 要

田川市等が所蔵する山本作兵衛の炭坑記録画作品と関連資料（「山本作兵衛コレクション」）が2011年5月にユネスコの「世界記憶遺産」（現在は「世界の記憶」）に登録されてから、今年で10周年を迎えることを記念して田川市が計画した、福岡県内各地を巡回する交流キャラバン展の幕開けとなる展覧会。「世界の記憶」に登録されている原画作品10点のほか、複製作品や関連資料を展示した。登録後の原画作品の公開は九州国立博物館・福岡市博物館以外では初めてである。

当館の前身の北九州市立歴史博物館は1975年の開館に際して、山本氏に炭坑記録画2点（坑内・坑外）の制作を委嘱したが、その作品2点は山本作兵衛最大の作品として独自の価値を有しており、これまでも様々な場面で紹介してきた。本展は山本作兵衛の「世界の記憶」登録作品と最大の作品が同じ時期・同じ場所で公開されるという点で、独自の意義を有している。

主な展示品

田川市が所蔵する「世界の記憶」登録作品原画10点、複製3点、関連資料20点。

【墨画】「昭和初期（移動カラコ）」「明治中期のハンドルポンプ」「スラ曳き」「昔のヤマ人のぞき」

【水彩画】「単丁切羽」「木子積」「チェーンコンベアー落口」「烏草木花下駄」「稻荷さん」「重圧」

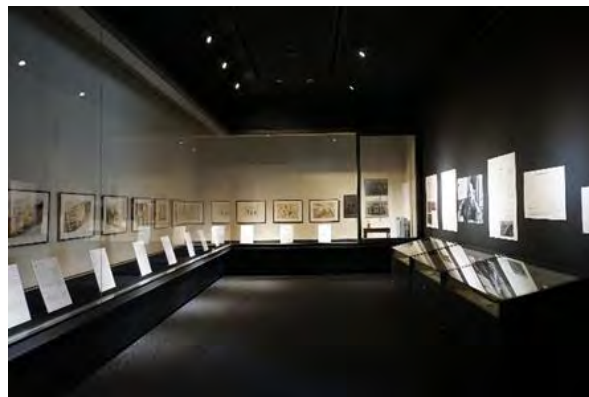
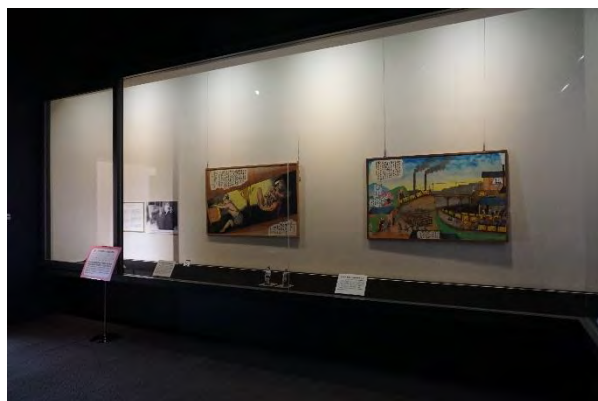
【複製】「灯りの変遷と手掘り採炭道具」「メンコ・ズッコミ」「ヤマの米騒動（軍隊の出動）」

当館が所蔵する山本作兵衛最大の作品など原画9点、そのほか石炭関係資料。

特記事項

田川市石炭・歴史博物館で北九州市について紹介するミニ企画展がおこなわれ、渋沢栄一が安川敬一郎に宛てた書簡4通を展示した。また4月17日に田川市で日比野による講演「近代の北九州と筑豊」が行われる。

（日比野利信）



(6) 古いカタチを残す生き物たち

期 間：令和2年5月19日（木）～令和3年3月31日

（令和3年度以降も継続して展示中）

会 場：ぼけっとミュージアム No.6

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担 当：江頭幸士郎

概 要

生きた化石と呼ばれることもある、化石で見つかる古代の生物と似た特徴をもつ現生の生物のうち、両生類・爬虫類各種の実物資料を展示し、その特徴や類似種化石の産出情報を解説した。なお、本展示の制作に当たっては、日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B）／代表：上田恭一郎。学芸員研究業績欄参照）の支援を受けた。

展示資料：

オオサンショウウオ、ワニガメ、ワニトカゲ、シュナイダームカシカイマン（ワニの一種）等。

（江頭幸士郎）



(7) 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」八幡製鐵所関連施設ビジターセンター

期 間：令和3年3月16日（土）～約1年間

会 場：ぼけっとミュージアム No.11

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担 当 者：金子大輔（北九州市世界遺産課）、

日比野利信・馬場由行

（北九州市立自然史・歴史博物館）

主 催：北九州市企画調整局（世界遺産課）

概 要

北九州イノベーションギャラリー（KIGS）の休館に伴って、KIGS内に設置されていたユネスコ世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄製鋼・造船・石炭産業」の八幡製鐵所関連施設ビジターセンターがKIGSの再開館まで約1年間当館に移設された。田川市の交流キャラバン展に合わせて公開した。

展示内容

明治日本の産業革命遺産8エリアの紹介。八幡製鐵所と関連施設の紹介（映像あり）。構成資産である旧本事務所周辺のジオラマ、ガラス乾板の複製、製鉄原料である鉄鉱石、石炭、石灰石を展示

特記事項：令和3年4月29日から5月30日までについては、公開を開始する北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」に組み込まれる。

（日比野利信）



(8) テーマ展「廃藩置県 150 年 小倉県とその時代」

期 間：令和3年3月12日（金）
～令和3年4月18日（日）38日間

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：日比野利信

概 要

(5) の田川市の交流キャラバン展開催に伴い、テーマ館「明治時代以降の北九州」で展示をおこなっている山本作兵衛最大の炭坑記録画 2 点など石炭関係資料が移動・公開されたため、その代わりに、今年が明治4（1871）年の廃藩置県から150年を迎えることを記念し、小倉県関係資料を紹介した。明治4年7月の廃藩置県に伴って旧藩がそのまま県となったが、11月には統廃合がおこなわれ、豊前一国の小倉県、筑前一国の福岡県、筑後一国の三潁県が成立する。さらに同9年4月に小倉県が、8月に三潁県とともに福岡県に統合されて、現在の福岡県が成立した。幕末の戦災と小倉藩庁移転という激動に見舞われた小倉は小倉県の県庁所在地となって、復興と近代化が追及された。また小倉県（初期県政という）の時代は、学制や徴兵令、地租改正など様々な近代化政策が試行錯誤とともに実施されたことでも重要な意味を持つ。本展は「石炭と鉄がつくった工業都市」として発展する以前—近代黎明期の北九州地域の一端を垣間見ることが企図した。

展示内容

小笠原忠忱一字書、小倉県制札、小倉県布達、小倉県概表、小倉県一覧表、名所旧迹名産珍物大相撲小倉県内寄、御加印札一件申上手控（小倉藩札の整理）、小倉医学校・病院に関する辞令、中原嘉左右日記（福岡県指定文化財、小倉県成立・廃止に関する記載を紹介）

特記事項：公開終了後の令和3年4月29日から5月30日まで開催する北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」に一部再編して組み込む。

(日比野利信)



(9) 100年前の感染症「スペイン風邪」

期 間：令和2年7月27日（月）
～令和2年9月30日（水）64日間
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
8/1～8/2の土日祝は休館。

会 場：歴史ゾーン 昭和30年代の社宅前

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担 当 者：上野晶子・守友隆・馬場由行（歴史課）
森康・中原亨（自然史課）堀口万里奈（普及課）

概 要

新型コロナウイルス感染症の大流行を経験しているなかで、感染症の歴史に関する関心を高めるため、100年前に大流行した「スペイン風邪」を題材とした版画を展示した。この版画は若松市出身の片山正信（1915～2011）の作品で、大正7年から日本で大流行したインフルエンザを題材にしたものである。本展示期間中は感染症対策としてハンズオン・スタンプラリー等を中止していたため、展示場を楽しむ代替企画の一環であり、「スペイン風邪の絵を探せ」というミッション形式のパネルを設置し、版画展示場まで誘導した。

(上野晶子)



(10) 新種魚類化石展示

期 間：令和2年9月5日（土）
～令和2年11月27日（金） 84日間

会 場：エンバイラマ館入口

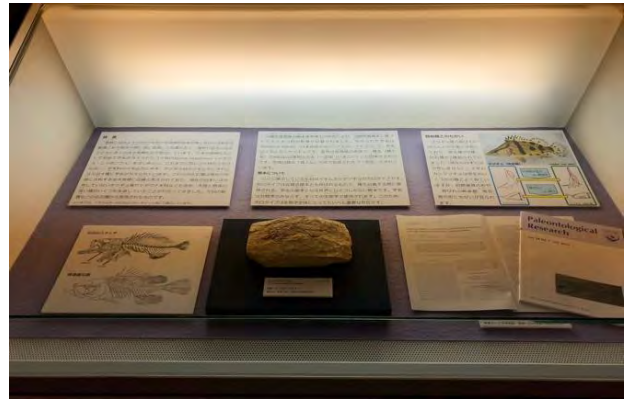
入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：日比野友亮・大橋智之

概 要

藪本名誉館員が研究された新種魚類化石イキムカシケツギョのホロタイプを特別公開した。この化石は長崎県壱岐市の長者原層（約 1500 万年前;新生代新第三紀中新世中期）から発見されたもので、長者原層からは、これまでに大陸とのつながりの深い種が複数見つかっており、今回の発見は当時の大陸と日本列島とのつながりを考えるうえでも重要である。ケツギョ科には現生種を含めて 10 種が知られているが、その大部分は中国に分布している。今回の研究によって、ケツギョ科の魚がかつての日本列島に広く分布していたことが示唆された。

(大橋智之)



(11) プロトプテルム類新種展示

期 間：令和2年10月23日（金）
～令和3年1月15日（金） 85日間

会 場：エンバイラマ館リサーチゾーン

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：大橋智之

概 要

北部九州に分布する芦屋層群（約 3000 万年前;新生代漸新世）から発見されたプロトプテルム類の化石が研究の結果、2新属新種であることが明らかになったのでホロタイプを特別公開した。北九州からはこれまでに2種のプロトプテルム類が報告されており、今回の報告で更に2種いたことが明らかになった。プロトプテルム類は北米の太平洋岸西域でも数種見つかっており、今回の標本はプロトプテルム科鳥類の多様性の解明に新知見を与えるものである。

(大橋智之)



(12) クリスマス・干支展示

[クリスマス展示]

期 間：令和2年12月1日（火）
～令和2年12月25日（金） 25日間

会 場：恐竜デッキ

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：中西希

概 要

来館者サービスの一環として、クリスマスシーズンにサンタクロースと繋がりの深いトナカイを紹介し、記念撮影を行えるように展示を行った。

展示標本：トナカイの剥製がプレゼントを乗せたそりを引いているポーズで展示し、来館者がそりに乗って記念撮影を行えるようにした。



[干支展示]

期 間：令和2年12月26日（土）
～令和3年2月14日（日） 51日間

会 場：博物館入口エレベーター横

入 場 料：無料

担当学芸員：中西希

概 要

博物館新館オープンから、リニューアルオープンのための閉館時を除き毎年その年の干支にちなんだ展示を12月末から1月に行っている。

展示標本：令和3年の干支（丑）にちなみ、ウシ科であるニホンカモシカの標本（成獣・幼獣計2個体）を展示した。解説パネルでは、日本では古くからカモシカが食料や防寒具として利用されていたことを紹介した。



(中西希)

1 3. その他の事業

(1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。現在の主要事業は隔年での「巡回展」の開催で、「東アジアの生活文化」を統一テーマとして、各館が所蔵する実物資料を中心に企画展を構成し、他の2館に巡回するものである。平成28年度に北九州が「衣」を、平成30年度は旅順博物館が「食」を担当して特別展を巡回開催した。

令和2年度は仁川広域市立博物館において、実務者会議ならびに館長会議を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため渡航が不可能となり、Web上にて8月14日(金)に実務者会議、11月30日(月)に館長会議を実施した。実務者会議では仁川広域市立博物館より、第3回巡回展「厠、トイレになる」の準備状況の報告ならびに出品リストが提示された。

館長会議では11月24日より仁川広域市立博物館で開催している「厠、トイレになる」の概要説明ののち、旅順博、当館が展覧会準備状況について報告した。仁川広域市立博物館が刊行した同名の展覧会図録には、当館も「日本における便所の歴史とその特質」を寄稿した。第3回巡回展については、両国とも実物資料ではなく展覧会のVR映像展示を巡回することで合意した。展覧会についての協定書は仁川広域市立博物館で準備し、郵送にて調印することを確認した。

続いて、第3期交流事業の方向性について議論をおこない、共同調査や学術会議、学芸員の交流などが挙げられ、令和3年度旅順で開催される実務者会議で内容を詰め、その後開催予定の館長会議で合意書に調印することを決定した。

(宮元香織)



仁川博における展示「厠、トイレになる」のポスター



館長会議の様子(仁川博)



館長会議の様子(当館)



館長会議の様子(旅順博)

(2) ジオパーク活動推進事業

令和元年度に引き続き、ジオパーク活動の普及に向けた取り組みを継続したがコロナ禍の状況の下で、普及講座などイベントや日本ジオパークネットワークの各大会など当初の計画を変更し中止や欠席などの対応を行なった。開催や参加が可能なものについて、本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深めるため、より魅力的なジオパーク普及講座の開発・実施やジオサイト・イベント予定を紹介するジオパークホームページの維持管理などを行った。また、日本ジオパークネットワークや九州ジオパーク連絡会主催の事業に参加し他地域との交流と情報収集につとめた。

主要事業と経過

1) ジオパーク普及講座の実施：

室内講座 1回：荒天のため中止

野外観察会（ジオツアー、ジオハイキング）6回：2回実施、4回新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

参加者合計 30名

2) ジオパークホームページの運営（<http://www.kitakyushu-geo.jp>）、アクセス解析の実施

3) 日本ジオパークネットワーク事業等参加

下記の総会等は新型コロナウイルス感染拡大のため中止や欠席

- ・日本ジオパークネットワーク通常総会
- ・九州ジオパーク連絡会
- ・日本ジオパーク全国大会

(太田泰弘・大橋智之)



(3) 北九州ミュージアムパーク創造事業 —東田エリアを中核とする文化×産業×観光—

当館は同じ東田地区にある環境ミュージアムやイノベーションギャラリー（KIGS）、市内の美術館や児童文化科学館などと相互連携して、文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の助成を受けて、平成30年度から「東田ミュージアムパーク創造事業」を実施してきた。

令和2年度から上記の文化庁助成事業が「博物館等を中核とした文化クラスター推進事業」に移行したことに伴い、本事業も衣替えし、東田地区に建設される新科学館ならびに市内の企業ミュージアムを構成施設として、標記の事業を実施することとなった。旧事業で数えると3年目、新事業では初年度となる令和2年度は下記の事業を実施した。

(1) ミュージアムパークツアー

市内の小学校3年生を対象として博物館ならびに美術館を訪れてもらい、学校の授業では体験できないプログラムを提供する事業である。

当館では社会科で学ぶ「昔の道具やくらし体験」をコンセプトに、学芸員の解説を受けつつ文化学習園を見学し、石臼引きの体験などを実施した。

(2) CCA連携事業

現代美術センターCCA北九州と連携して、妖怪研究者の湯本豪一氏を招き、講座「妖怪・幻獣学の現在」を開催した。2部構成とし、第1部は湯本氏の講演会「妖怪博物館への道—研究とコレクション—」を実施した。第2部は博物館と美術館の学芸員が、妖怪や幻獣をめぐる文化史の諸相について、湯本氏にお話をうかがった。

(3) 収蔵資料等（コレクション）デジタルアーカイブ事業

博物館の収蔵資料ならびに地域の歴史資源について、北九州市の足跡や変遷を示す近代資料を中心としてデジタルアーカイブを構築し、公開をはかるもの。

令和2年度は図書館や文書館が収蔵する地図や絵葉書、博物館が収蔵する近代資料を中心に、写真撮影を行い、データベースを作成した。

(4) 東田地区3館連携企画展準備

当館と環境ミュージアム、旧鶴屋店舗の3会場で行う「北九州・産業都市の軌跡」展（令和3年4月29日より開催予定）について、展覧会会場で配布する予定の展示解説シート29枚の執筆と印刷、展示解説パネルの作成、展示会場の造作の一部を作成するなどの準備を行った。

(5) 「いのちのたび博物館」展示空間の拡充事業

常設展の課題抽出や課題解決のための方法などを調査・検討し、展示リニューアルの基本となる「展示空間進化のための改修基本計画策定にかかる課題整理」を行い、同名の報告書をまとめた。

また展示資料の視認性や保全性の向上に努める「磨き上げ事業」として、展示ケース内の照明LED化や、展示台の布の貼り替えなどを実施した。

（宮元香織・大橋智之）

1 4. 教育普及活動

(1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第 2 の学校（教室）として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、

- (1) 博物館への誘致事業
- (2) 学校教育支援事業
- (3) 家庭教育支援事業

の 3 つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

1) 博物館への誘致事業

- 博物館への誘致活動

修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイダンス DVD、パンフレット類の送付及び旅行会社への PR 活動

- 情報発信による博物館利用の案内

- ・情報誌「いのちのたび」を月 1 回、保育所（園）・幼稚園向けの情報誌を年 2 回発行
- ・博物館ホームページ、市政だより等の活用

2) 学校教育支援事業

- 博物館活用資料の整備

各種ガイドブック、ワークシート、スタンプラリーシート、体験活動プログラム資料など

- 体験学習プログラムの提供

化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくり、化石発掘体験、勾玉づくり

- 授業づくり支援

「博物館利用の手引き」の紹介、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」「土地のつくりと変化」等の館内授業、ディスカバリーボックスの貸し出し等

- 職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ等

- 環境アクティブ・ラーニング（北九州市教育委員会主催の市内小学校 4 年生を対象とした体験活動）

- ミュージアムパーク・ツアー（市内小学校 3 年生を対象とした体験活動）

3) 家庭教育支援事業

- いのちのたび子ども教室（12 名を定員として前期 2 回、後期 6 回で学芸員による講話や体験学習を実施する。）

- 東田サマースクール（夏休み期間中に、北九州イノベーションギャラリー（KIGS）、環境ミュージアムと合同で全 2 期の体験学習を実施する。）

【令和 2 年度 学校関係利用状況】

- 誘致活動実績

誘致先	岡山県	広島県	愛媛県	香川県	山口県	大分県	佐賀県	長崎県	合計
訪問社数	0	18	8	25	18	10	3	0	96

- 学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	高等学校	特別支援	合計
団体数	82	182	12	27	9	312
人数	2,769	9,647	766	772	154	14,108

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
学 校 数	5	2	8	5	20
人 数	280	135	302	208	925

授 業	昔の道具調べ	土地のつくり		環境アクティブ・ラーニング	合計
		館内授業	出前授業		
学 校 数	19	0	23	16	58
人 数	717	0	594	610	1,921

※ 土地のつくり（館内授業）...新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

合計 78 校 2,846 人

授 業	ミュージアムパーク・ツアー
学 校 数	9
人 数	459

○ 家庭教育支援事業実績

講座名	いのちのたび子ども教室	東田サマースクール
回 数	前期 2 回 後期 6 回	0 (2 期予定)
参加者数	69 名	0 (各期 12 名 計 24 名)

※ 東田サマースクール...新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を 10 回実施した（野外観察会：1 回、室内講座 5 回、たいけん講座：3 回）。また、13 回の講座を新型コロナウイルス感染症対策のため、1 回の講座を降雪のため中止した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
たいけん講座	ジオ体験「ジオの恵み：合馬のたけのこ！！」	中止	—	—
室内講座	動物命名の世界を知ろう	中止	—	—
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	中止	—	—
野外観察会	ジオハイキング「探検！化石の島：藍島」	中止	—	—
室内講座	恐竜教室「アースモールの恐竜たち」	中止	—	—
室内講座	哺乳類の食べ物を調べてみよう！	中止	—	—
室内講座	昆虫標本作製教室	中止	—	—
室内講座	顕微鏡で見る美しい鉱物	中止	—	—
室内講座	植物細密画を描いてみよう！	中止	—	—
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	中止	—	—
野外観察会	ジオハイキング「生きた化石、カプトガニの不思議」	中止	—	—
野外観察会	ジオハイキング「化石と地質のたのしみ方」	中止	—	—
室内講座	ヤドカリのひっこしを観察しよう	令和 2 年 9 月 13 日	土	14
野外観察会	ジオハイキング「恐竜時代の大地！血倉山ウオーキング」	令和 2 年 10 月 11 日	日	10
たいけん講座	博物館のそばにやってくる野鳥を見てみよう	令和 2 年 10 月 18 日	日	6
室内講座	植物細密画を描いてみよう！	令和 2 年 10 月 25 日	日	15
たいけん講座	レンジでもみじのしおりを作ろう	令和 2 年 11 月 15 日	日	17
室内講座	恐竜の一年	令和 2 年 12 月 12 日	土	13
室内講座	食魚談義「魚を食べるはなし」	令和 2 年 12 月 13 日	日	5
室内講座	恐竜すず払い	令和 2 年 12 月 22 日	火	5
室内講座	ジオ講座「小さな化石にふれてみよう！」	中止	—	—
室内講座	透明標本で骨のでき方をみてみよう！	令和 3 年 1 月 24 日	日	16
たいけん講座	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう！	中止	—	—
たいけん講座	ジオハイキング「平尾台の成り立ちを知る ジオハイキング」	令和 3 年 3 月 28 日	日	8

合計 10 回 109 人

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を企画し、理解につとめた。新型コロナウイルス感染症対策のため中止にした講座が5回あった。開催した講座についても内容および人数を絞って行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
歴史探訪講座	北九州の文化財を歩く～小倉城惣構え跡編～	中止	—	—
室内講座	近世文書読み方講座	中止	—	—
たいけん講座	若武者に変身!	中止	—	—
室内講座	伝統の妙! からくり屏風を作ろう!	中止	—	—
室内講座	親子で学ぶ小倉織講座	中止	—	—
歴史探訪講座	北九州の文化財を歩く～門司港の近代建築編～	令和2年11月15日	日	10
室内講座	小倉織入門教室	令和2年3月6日	土	16

合計2回 26人

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然の営みと人々の歴史を考える講座を3回計画したが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう!	中止	—	—
いのたび自然塾	どんぐり祭り! 食べよう・あそぼう	中止	—	—
いのたび自然塾	もうすぐお正月! オリジナルしめ縄作り	中止	—	—

合計0回 0人

4) 特別展の普及講座等

特別展に関連した講座等として下記を開催した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
関連イベント	書道パフォーマンス	令和3年1月2日	土・祝	80
関連イベント	書き初めワークショップ	令和3年1月10日	日	16
関連イベント	講演会「大名道具のなかの刀剣」	令和3年1月16日	土	80

合計3回 176人

(3) 博物館実習

1) 自然史課博物館実習

学芸員養成課程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。5日間と10日間を学生が選択。

1期：8月4日（火）～8月15日（土）、日曜・月曜休講の10日間

人数：11名（うち6名は5日間）

所属大学：帯広畜産大学1名、東京農業大学1名、東海大学1名、愛知大学1名、福山大学1名、福岡大学2名、西南学院大学1名、九州産業大学1名、宮崎大学1名、琉球大学1名

2期：8月25日（火）～9月5日（土）、日曜・月曜休講の10日間

人数：9名（うち4名は5日間）

所属大学：岐阜大学1名、立命館大学1名、福山大学1名、山口大学1名、福岡大学1名、西南学院大学1名、久留米大学1名、九州保健福祉大学1名、鹿児島大学1名

2) 歴史課博物館実習

学芸員養成課程の学生を受け入れ、学芸員が分担して指導をおこなった。

期間：8月4日（火）～8月8日（土）5日間

人数：8名

所属大学：北九州市立大学3名、福岡大学2名、山口大学1名、梅光学院大学1名、京都女子大学1名

(4) 職場体験・職員研修受け入れ

毎年、教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行っている。しかし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のためすべての受入を中止した。

(5) 外部機関の依頼による講演など

小・中学校や高等学校・大学など学校教育機関、年長者大学校や市民センターなど社会教育機関ほか外部機関の依頼を受けて、学芸員が専門分野に関する講演などを行った。

1) 普及課

3件：沖縄県の小中学生向けの環境教育プログラム、対馬グローバル大学(長崎県)で講義を行った。

2) 自然史課

26件：市内の小中学校や県内の高等学校、帆柱自然公園愛護会などのNPO団体をはじめ、対馬市などの行政団体、北九州市立大学、北海道大学、岐阜大学、九州大学、九州国際大学、九州産業大学などからの依頼を受け、自然史や博物館学などに関する講義や講演を行なった（大学の非常勤講師・招へい教員を含む）。なお、本年度は、Zoomなどを用いたリモート対応も行った。

3) 歴史課

20件：市の新規採用職員研修のほか北九州市年長者大学校（穴生学舎および周望学舎）、各市民センター、北九州観光市民大学、北九州市立大学、九州共立大学などにおいて、北九州市の歴史と文化、市内の遺跡、長崎街道、小倉藩小笠原家と福岡藩黒田家、近代港湾、明治日本の産業革命遺産、帆柱山など様々なテーマで講演などを行った（18件）。ほかに小倉城の企画展「忠興の妻・細川ガラシャ」や旧安川邸の整備・公開について監修などの形で協力を行った。

(6) 団体・委員会への就任依頼

1) 普及課

伊澤雅子

- ・環境省希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・奄美・徳之島・沖縄島北部・西表島世界自然遺産候補地科学委員会委員（環境省）
- ・奄美・徳之島・沖縄島北部・西表島世界自然遺産候補地科学委員会沖縄ワーキンググループ委員（環境省）
- ・オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会委員（環境省）
- ・ツシマヤマネコ保護増殖検討会委員（環境省）
- ・ツシマヤマネコ生息域内保全委員会委員（環境省）
- ・ツシマヤマネコ生息状況モニタリング評価会議委員（環境省）
- ・ツシマヤマネコファウンダー候補導入検討ワーキンググループ委員（環境省）
- ・イリオモテヤマネコ保護増殖検討会委員（環境省）
- ・イリオモテヤマネコ WG 委員（環境省）
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議委員（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会委員（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会公園鳥獣部会委員長（福岡県環境部）
- ・沖縄県土地開発審査会委員（沖縄県企画部）
- ・沖縄県文化財保護審議会委員（沖縄県教育庁）
- ・沖縄県動物愛護管理推進計画懇話会委員（沖縄県自然保護課）
- ・ノイヌ・ノネコ対策事業検討委員会委員（沖縄県自然保護課）
- ・イリオモテヤマネコ交通事故防止対策検討会委員（沖縄県自然保護課）
- ・日本哺乳類学会理事（日本哺乳類学会）
- ・哺乳類保護管理委員会レッドデータ作業部会委員（日本哺乳類学会）
- ・沖縄生物学会会長（沖縄生物学会）

2) 自然史課

真鍋 徹

- ・北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議委員（北九州市環境局）
- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・広谷湿原県設置施設管理方針検討委員会委員（福岡県環境部）
- ・小石原川ダムモニタリング部会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダムモニタリング部会クマタカ保全検討部会委員（水資源機構）
- ・ナショナル・バイオリソース・プロジェクトにおける「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」事業協力者（国立科学博物館）
- ・日本景観生態学会副幹事長（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学生態系インフラ活用検討委員会委員（日本景観生態学会）
- ・特別研究員等審査会委員等（令和元年7月1日～令和3年6月30日：日本学術振興会）

森 康

- ・日本鉱物科学会博物館委員会（日本鉱物科学会）

御前明洋

- ・県の石出版プロジェクトチーム「福岡県の石」まとめ役（日本地質学会）

大橋智之

- ・石川県白手市手取層群化石調査団員（白山市）

太田泰弘

- ・美祢市立博物館等施設将来構想検討委員会委員（美祢市教育委員会）
- ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・日本地質学会代議員（日本地質学会）
- ・日本地質学会生涯教育委員会委員（日本地質学会）
- ・日本地質学会古生物部会世話人（日本地質学会）
- ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）

蓑島悠介

- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・日本甲虫学会庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会和文誌編集委員（日本甲虫学会）
- ・日本昆虫学会英文誌編集委員 Associate Editor（日本昆虫学会）

江頭幸士郎

- ・宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会（宇佐市教育委員会）
- ・環境省希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・福岡県希少野生動植物保護検討会委員（福岡県環境部）
- ・日本爬虫両棲類学会英文誌編集委員（日本爬虫両棲類学会）
- ・九州両生爬虫類研究会運営委員（九州両生爬虫類研究会）
- ・九州両生爬虫類研究会福岡大会事務局長（九州両生爬虫類研究会）

日比野友亮

- ・日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会若手の会会長（日本魚類学会若手の会）
- ・2020年度日本魚類学会年会（ウェブ大会）実行委員会委員（日本魚類学会）
- ・標準和名検討委員（日本魚類学会）
- ・日本動物分類学会和文誌編集委員（日本動物分類学会）
- ・ニッチェ・ライフ編集委員（ニッチェ・ライフ編集委員会）

中原 亨

- ・日本鳥学会企画委員（日本鳥学会）
- ・日本鳥学会選挙管理委員会委員（日本鳥学会）
- ・日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・日本生態学会大会企画委員会高校生ポスター部会員（日本生態学会）
- ・猛禽類現地調査指導（国土交通省福岡国道事務所）
- ・鳥類・猛禽類調査技術指導（国土交通省福岡国道事務所）

中西 希

- ・北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市環境局）
- ・北九州市人と動物の共生社会推進懇話会会員（北九州市保健福祉局）
- ・令和2年度マングース対策事業検討委員会委員（沖縄県環境部）
- ・令和2年度外来種対策事業（哺乳類対策）作業部会委員（沖縄県環境部）
- ・竹富町西表島エコツーリズム推進協議会委員（竹富町）
- ・令和2年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会委員（環境省）
- ・令和2年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会委員ワーキンググループ委員（環境省）

- ・日本生態学会大会企画委員会ポスター部会員（日本生態学会）
- ・日本哺乳類学会英文誌編集委員会委員（日本哺乳類学会）
- ・日本哺乳類学会代議員（日本哺乳類学会）

竹下文雄

- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）

3) 歴史課

日比野利信

- ・福岡市総合図書館文書資料収集審査委員（福岡市教育委員会）
- ・九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

宮元香織

- ・佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県）
- ・宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

上野晶子

- ・戸畑祇園大山笠振興会 保存委員会委員

守友 隆

- ・福岡市史編集委員会近世専門部会調査委員（福岡市）
- ・新修宗像市史編集委員（宗像市）
- ・九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門学外研究員（九州大学）

中西義昌

- ・日本建築学会九州支部歴史意匠委員（日本建築学会）

15. 博物館ボランティア（シーダー）の活動

(1) シーダー組織の活動

1) 人数 (令和3年3月31日現在)

- ・ 登録人数 53名 [男性 22名 女性 31名]
20代 (3名) 30代 (0名) 40代 (0名) 50代 (4名)
60代 (21名) 70代 (18名) 80代 (7名) 90代 (0名)

2) 活動内容

[展示案内グループ]

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

[講座補助グループ]

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室・東田サマースクールおよびMTが行う授業（環境アクティブラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

[演示グループ]

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

3) 活動実績

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1年間の活動休止となった。その中で、令和3年度に向けた説明会および第9期のシーダー養成講座のみを実施した。

- 3月9日（火） 15:00～16:00 シーダー懇談会
・ 今後のスケジュール、可能な活動内容等について
- 3月13日（土） 10:00～16:00 シーダー養成講座（第9期）
・ 体験プログラム（古代の鏡、ペットボトル顕微鏡）、展示物見学

4) 研修

シーダーとしての資質向上を目指した月1回の学芸員との「シーダーゼミ」も令和2年度は、計画・活動共に実施できなかった。

(2) 資料整理補助グループ

(2-1) 植物さく葉標本整理補助ボランティア

1) 人数 (令和3年3月31日現在)

6名

2) 活動実績

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は活動を休止した。

(2-2) 小倉織復元補助ボランティア

1) 人数 (令和3年3月31日現在)

16名

2) 活動実績

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は活動を休止した。

16. 自然史友の会の活動

目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

608名（令和2年3月31日現在、以下同）

役員等

会長：小林 繁、副会長：新海義治・佐藤政弘、幹事長：新海義治(兼任)、事業担当幹事9名、出版担当幹事8名、庶務会計担当幹事2名、会計監査2名、評議員35名、顧問14名

年会費

正会員：大人3,000円、小・中・高生1,000円、家族4,000円。賛助会員：10,000円

活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー20～30ページ前後）
第152号（令和2年9月10日発行）：「直方第二中学校の昆虫調査～夜間採集～」等8件の報告
第153号（令和3年2月20日発行）：「紫川にギギはいた！」等9件の報告
- (2) 研究部会の活動：例会の実施（計8回）
地質鉱物（第184回例会）、化石（例会実施せず）、植物（例会実施せず）、昆虫（例会実施せず）、水生動物（第12～13回例会）、両生・爬虫類（第241～245回例会）、鳥類（例会実施せず）
- (3) 友の会野外観察会の実施
千石峡（宮若市）にて実施を予定していたが、感染症拡大予防のために中止。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施
野外観察会・夏休み教室を6回計画していたが、感染症拡大予防のために中止。
- (5) 市民向け室内講座の実施
「植物細密画を描いてみよう！」
第1回 7月12日（日）に計画していたが、感染症拡大予防のために中止。
第2回 10月25日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者15名。
- (6) 会員向け室内講座の実施
本年度は実施せず。
- (7) 研究発表会の実施
本年度は実施せず。
- (8) 会議等の実施
総会・親睦会（文書審議1回）、評議員会（文書審議1回）、三役・各担当幹事会代表会（2回）、出版担当幹事会（4回）、事業担当幹事会（文書1回）、庶務会計担当幹事会（1回）。

17. 歴史友の会の活動

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数：122名（令和3年3月31日現在）

役員等

会長：永尾正剛、顧問：野口委有、副会長：岩井勝治・渡辺善夫、会計3名、会計監査2名、
会員管理1名、講座運営担当13名、遺跡見学運営担当11名、広報・会誌編集5名

年会費：正会員：5,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）500円

活動内容（令和2年度）

(1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）

(2) 講演会 年12回開催 参加者総計 348名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館に伴い、4回中止。9月以降、定員80名を上
限にして会員に限定するなどの感染症拡大防止策を講じて再開。

日時	講演タイトル	講師	人数
4月11日（土）	町人の精神—くじ引き將軍の周辺	東京大学大学院教授 桜井英治先生	中止
5月9日（土）	上野焼の系譜 八代焼～伝統の技と美～	元八代市立博物館 福原透先生	中止
6月13日（土）	豊後府内と大友館	大分市教育委員会文化財課長 坪根伸也先生	中止
7月11日（土）	行橋長井浜遺跡の調査成果について	行橋市教育委員会 笠置拓也先生	中止
	豊前国府について	みやこ町歴史民俗博物館 井上信隆先生	
8月8日（土）	遠賀川流域の考古学	飯塚市歴史資料館館長 嶋田光一先生	11月に延期
9月12日（土）	洞海湾の近代化遺産	北九州市総務局総務課 学芸員 市原猛志先生	34
	関門海峡の近代化遺産	下関市教育委員会 高月鈴世先生	
10月10日（土）	浪花節史への招待	北九州市立大学教授 真鍋昌賢先生	41
11月7日（土）	遠賀川流域の考古学	飯塚市歴史資料館館長 嶋田光一先生	55
12月19日（土）	細川の葡萄酒	北九州市立自然史・歴史博物館歴史友の会会長 永尾正剛先生	51
1月16日（土）	冬の特別展「博多藤四郎」関連講演会 大名道具のなかの刀	立花家史料館館長 植野かおり先生	80
2月13日（土）	北部九州古墳時代の渡来人	佐賀大学教授 重藤輝行先生	48
3月13日（土）	熊本城復興の現在	熊本市熊本城調査研究センター 主査 金田一精先生	39

(3) 史跡めぐり 年5回開催、但し、臨時休館に伴い4回中止。 参加者総計 26名

日時	場所	人数
5月23日（土）～5月24日（日）	史跡巡り 石見銀山ほか	中止
6月7日（日）	史跡巡り バスハイク熊本方面	中止
10月2日（金）～10月4日（日）	関西方面史跡見学会 滋賀県・比叡山延暦寺	中止
11月29日（日）	史跡見学会 春日・大野城方面（奴国の丘・大野城心のふるさと館など）	26
2月21日（日）	史跡巡り バスハイク田川・嘉穂方面4	中止

18. 資料の収集保存状況

(1) 自然史課

1) 令和2年度資料登録状況

令和2年度の自然史資料の登録（デジタルデータベース化）点数は、以下のとおりである。

分野	購入		委託製作		寄贈		寄託		採集		交換		その他		合計			
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数		
生物系	無脊椎動物	IvR	0	0	1	1	5	7	0	0	13	32	0	0	0	0	19	40
	脊椎動物	VR	16	16	0	0	153	153	0	0	239	239	2	2	119	119	529	529
	昆虫	IR	45	45	10	10	44	44	0	0	0	0	0	0	0	0	99	99
	顕花植物	GR	0	0	0	0	47	63	0	0	13	14	0	0	0	0	60	77
	隠花植物	AR	0	0	0	0	21	25	0	0	2	3	0	0	0	0	23	28
	コケ類	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菌類	FR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	藻類	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<小計>		61	61	11	11	270	292	0	0	267	288	2	2	119	119	730	773
地学系	無脊椎動物	IvP	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
	脊椎動物	VP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	昆虫	IP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	顕花植物	GP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	隠花植物	AP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩石	L	0	0	0	0	83	85	521	539	0	0	0	0	0	0	604	624
	鉱物	M	14	14	0	0	125	151	9	10	0	0	0	0	0	0	148	175
	<小計>		14	14	0	0	215	243	530	549	0	0	0	0	0	0	759	806
その他	その他	O	0	0	0	17	59	0	0	0	0	0	0	0	0	17	59	
合計		75	75	11	11	502	594	530	549	267	288	2	2	119	119	1,506	1,638	

2) 令和2年度資料収集状況

令和2年度の自然史資料の収集点数および、主な収集資料は以下のとおりである。なお、本年度は、収蔵資料数のより正確な把握に向けた収蔵状況の確認作業を行った。

	購入	委託製作	寄贈	寄託	交換	採集	その他	合計
生物系								
甲殻類・貝類	0	1	7	0	0	32	0	40
昆虫類等	470	31	8,836	0	0	469	0	9,806
魚類	0	1	11	0	0	133	0	145
両生類	3	0	20	0	2	72	1	98
爬虫類	1	0	37	0	0	28	0	66
鳥類	6	0	24	0	0	1	2	33
哺乳類	6	0	61	0	0	7	116	190
種子植物	0	0	63	0	0	16	0	79
シダ植物	0	0	25	0	0	3	0	28
<小計>	482	33	9,027	0	0	661	118	10,321
地学系								
岩石	0	0	83	517	0	0	0	600
鉱物	14	0	125	9	0	0	0	148
古脊椎動物	0	0	10	0	0	0	0	10
古無脊椎動物（昆虫以外）	0	0	7	0	0	0	0	7
<小計>	14	0	225	526	0	0	0	765
その他								
染料素材（植物等）	0	0	59	0	0	0	0	59
<小計>	0	0	59	0	0	0	0	59
【合計】	496	33	9,311	526	0	661	118	11,145

<購入・委託作成資料>

- ・オオウナギ剥製（1点）
- ・多色性を示す水晶および蛍石（計13点）
- ・イリオモテヤマネコ剥製・交連骨格（計3点）
- ・コビレゴンドウ交連骨格（1点）

- ・トドなめし毛皮（1点）
- ・オオハナインコ等、色彩の派手な鳥類の標本（計6点）
- ・食糞性コガネムシ標本（470点）

<主な寄贈資料等>

- ・豊後大野産デボン紀腕足類化石（3点）
- ・北九州市周辺産のものを中心とする無脊椎動物化石および脊椎動物化石（約1000点、正確な集計・登録は次年度以降行う）
- ・イリオモテヤマネコ骨格・冷凍死体（環境省からの譲受け、106点）
- ・北部九州を中心とした国内外産甲虫標本（約2700点）
- ・鱗翅目ホロタイプ標本（1点）、パラタイプ標本（2点）
- ・博多築港記念大博覧会に出品された記録のあるタンチョウ剥製（1点）

<主な採集資料>

- ・台湾産魚類標本（126点）

(2) 歴史課

1) 令和2年度資料収集状況

令和2年度の歴史資料の登録点数は以下のとおりである。

	令和元年度末累計	令和2年度登録数					令和2年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系	34,005	5	0	31	0	36	34,041
考古系	50,541	0	0	0	0	0	50,541
合計	84,546	5	0	30	0	35	84,581

2) 令和2年度収集資料の概要

これまで長い間寄託を受けてきた小倉祇園祭のだし（山車）5台（福岡県指定有形民俗文化財）が揃って寄贈された。江戸時代から明治時代にかけて、小倉祇園祭には各町内から趣向を凝らした様々なだし（山車）が御神幸に随従した。その後次第に消し、第二次世界大戦によってほとんど途絶えてしまったなかで、5台のだし（山車）はいずれも古い小倉祇園祭の形態を伝える貴重な文化財である。

①紺屋町だし（山車） 安政3（1856）年 当館に展示中

上から、金の鳳凰、桐、雲をあしらった彫物と白毛の馬簾、高さ450cm

②古船場町だし（山車） 安政4（1857）年 当館収蔵庫で保管

上から、金の鳳凰、打ち出の小槌に雲を配した蔵鍵と馬簾、高さ433cm

③大門町だし（山車） 明治21（1888）年 小倉北区役所に展示中

上から、軍配、雲、「大門町」の扁額に竜の彫刻、高さ444cm

④堺町だし（山車） 明治22（1889）年 当館収蔵庫で保管

上から、宝剣、雲、銀杏と巻物紋の飾り物、波形の彫物と白毛の馬簾、高さ466cm

⑤西鍛冶町だし（山車） 明治31（1898）年 当館収蔵庫で保管

上から、金幣を配し宝珠が三方に乗り、「西加治町」の扁額、稲穂をくわえた白狐が波の上を飛んでいる彫り物、高さ452cm

購入資料は5件、31点。第1に、天領日田の出身で、小倉に転居して小倉藩の御用絵師となった高木豊水の水墨画の作品「嵐山春景」である。豊水は京都で岡本豊彦に学んだと言われており、京都の名所である嵐山を描いた本作品は豊水の活動を知るうえでも重要な意味を有している。当館にはすでに12点の豊水作品が所蔵されており、今回の購入作品は当館のコレクションを補強する意義を有している。

第2に、遠賀郡熊手村（現在の八幡西区）の綿屋文書21点である。綿屋は屋号で、姓は松井、富裕な農民であり、同村の組頭を務めたこともある。本資料は長崎街道筑前六宿の一つ・黒崎宿と周辺農村の関係などを考えるうえでも有用な歴史資料である。

第3に、小倉西魚町の海士屋文書7点である。海士屋（両羽家）は細川小倉藩時代の元和4（1618）年に長門国から豊前国小倉に移住し、小倉藩から藍島を「猟場」として預けられ、細川家の「御肴御用聞」を務めて、海士の支配をおこなった。細川家の熊本藩転封後に小倉藩主となった小笠原家のもとでは、海士支配の務めからは途中で外れたが、小笠原家の「御肴御用」は継続して務めた。海士屋文書は点数こそ少ないが、江戸時代後期の海士屋の動向が知られるものである。小倉商人に関する古文書があまり残されていないなかで貴重である。

第4に、小倉藩主小笠原家菩提寺の黄檗宗広寿山福聚寺の開祖・即非如一と、初代藩主小笠原忠真の事績を福聚寺2代住持の法雲明洞がまとめた「賓主聯璧」（木版本）である。「賓主」は客と主人で寺院の旦那と師にも当てはまる。「聯璧」は「双璧」と同義である。どちらも忠真と即非の2人を指している。江戸時代の北九州地域の歴史を考えるうえで重要な存在である両者に関する資料として不可欠である。

第5に、歌川広重の門人・歌川広景の浮世絵「江戸名所道外尽 廿八妻恋こみ坂の景」である。道端の厠にしゃがんで用を足す武士と臭いを我慢する従者たちの様子を描いた作品で、トイレをテーマとする特別展の展示作品として購入した。

当該年度は資料の登録点数が少なかった。現在未整理資料の整理のほか資料群台帳の整備、資料整理報告書の作成、デジタル・アーカイブの構築など博物館資料の整理・公開推進に向けて取り組んでいる。

19. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	目的	所属団体名	閲覧者	人数	閲覧日
1	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	藪本美孝	1	R2.4.1-7.31
2	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	藪本美孝	1	R2.8.1-11.30
3	自然史	九州産新生代鳥類足跡化石	鳥類に関する随筆執筆	自然史友の会	原田隆好	1	R2.7.27
4	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	元鹿児島大学博物館館長	山根正気	1	R2.8.31-9.3
5	自然史	シーボルト標本鳥類・哺乳類写真整理	動物収蔵庫保管のシーボルト標本鳥類・哺乳類のデジタル化	北九州市立自然史・歴史博物館・名誉館員	武石全慈	1	R2.10.20-R3.3.31
6	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	元鹿児島大学博物館館長	山根正気	1	R2.10.21-10.24
7	自然史	クモ類標本	クモ類標本の閲覧・研究	九州大学農学部生物資源環境学科(学生)	野口奨悟	1	R2.10.28
8	自然史	化石(アンモナイトなど)	アンモナイトおよびコンクリーションに関する研究	東京大学理学系研究科	三上智之	1	R2.11.4-11.5
9	自然史	化石(アンモナイトなど)	アンモナイトおよびコンクリーションに関する研究	公益財団法人深田地質研究所	村宮悠介	1	R2.11.4-11.5
10	自然史	下関市産ジュラ紀アンモナイト	ジュラ紀アンモナイト化石の研究	自然史友の会	清野 忠	1	R2.11.26
11	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館・名誉館員	藪本美孝	1	R2.12.1-R3.3.31
12	自然史	学校に收藏されていた標本	左記標本の調査	千葉県立中央博物館	斎木健一	1	R2.12.7-12.8
13	自然史	クモ類標本	クモ類標本の閲覧・研究	九州大学農学部生物資源環境学科(学生)	野口奨悟	1	R2.12.25-12.27
14	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	元鹿児島大学博物館館長	山根正気	1	R3.3.8-3.12
15	自然史	下関市産ジュラ紀アンモナイト	ジュラ紀アンモナイト化石の研究	自然史友の会	清野 忠	1	R3.3.16
16	歴史	天籟寺山竊跡群出土資料(須恵器)のうち車輪文当具痕を有するもの	新修宗像市史における原稿のための資料収集調査	宗像市史編集委員会原始・古代部門	伊崎利秋 原俊一	2	R2.9.29
17	歴史	土佐光成七福神秋草鶏図屏風、土佐光起秋草鶏図	土佐派に関する科研費作品調査	大阪市立美術館	知念理	1	R2.11.17
18	歴史	石包丁(貫川遺跡)	令和3年度秋季展覧会予備調査	島根県立古代出雲博物館	原田敏照	1	R2.11.20
19	歴史	昭和の杜宅図面	昭和に建てられた実家の図面化の参考とするため		扇山敬一郎	1	R3.2.4

20. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間/申請日
1	自然史	宗像石	1	海の道むなかた館	展示	R2.4.1-R3.3.31
2	自然史	鉄鉱石、石炭、石灰石	3	北九州イノベーションセンター	展示	R2.4.1-R3.3.31
3	自然史	美祿・豊浦層産昆虫化石	4	大山 望(九州大学理学府博士課程)	昆虫化石の分類学的研究	R2.4.1-R3.3.31
4	自然史	軟体動物化石	19	伊庭靖弘(北海道大学大学院理学研究科)	軟体動物化石の分類学的研究	R2.5.1-R5.3.31
5	自然史	ヒキダコウモリダコ生体復元模型、ヒキダコウモリダコ下顎レプリカ	1	マリンワールド海の中道	貸出延長(コロナ対策での休館による)	R2.6.1-R2.9.30
6	自然史	クモヒトデ類化石	1	石田吉明(東京都)	クモヒトデ類の分類学的研究(共同研究)	R2.6.10-R5.3.31
7	自然史	イリエワニ剥製1点、タイコプラ剥製2点、サイドワインダー(ヘビ類)液浸標本1点	4	国立科学博物館	特別展「大地のハンター」において展示予定	R3.3.9-6.13
8	自然史	ビワハゴロモ科乾燥標本	4	丸山宗利(九州大学総合研究博物館)	エクスマレッジ社刊「ビワハゴロモ図鑑(仮称)」への掲載用画像の撮影	R2.7-R3.6
9	自然史	キジ斃死体(雄1、雌1)	2	杉田典正(国立科学博物館)	キジ個体群の遺伝構造の研究	R2.7-12
10	自然史	タツウミヘビ筋肉(分割譲渡)	1	望岡典隆・遠藤詢介(九州大学大学院)	ウミヘビ科の仔親研究(DNA解析)	R2.7.3
11	自然史	下関吉母産恐竜足跡化石(実物)	1	山口県立山口博物館	特別展「生物の進化と恐竜ワールド」	R2.7.17-10.9
12	自然史	オトギリソウ属の植物	12	Irene Masa Iranzo(マドリッド王立植物園)	オトギリソウ属の分類学的研究	R2.7.31-R3.5.31
13	自然史	ウマ頭骨	1	エルメスジャパン・コミュニケーション部	「ベゾール」シャルロット・デュマ展での展示	R2.8.3-R3.1.15
14	自然史	ウナギ目ウミヘビ科の仔魚(貸出および分割譲渡)	1	望岡典隆・遠藤詢介(九州大学大学院)	ウナギ目ウミヘビ科の仔親研究	R2.8.18-R3.3.31

				院)		
15	自然史	アジア産ハムシ類	41	Chi-Feng Lee (台湾農業試験場)	台湾産ハムシ科の研究	R2.10-R3.9
16	自然史	馬島産アミノドン類 (?) の脛骨化石	1	松井久美子 (九州大学総合研究博物館)	当該資料の古生物学的分類群の検討	R2.10.6-R3.3.31
17	自然史	沖縄産魚類、ベトナム産魚類	7	小林大純 (琉球大学熱帯生物圏研究センター)	分子系統学的研究 うち6点は分析用に筋肉を譲渡	R2.10.9-R4.3.31
18	自然史	ソコモングラ (魚類標本)	1	松尾 怜 (和歌山県東牟婁振興局農林水産振興部)	分類学的研究	R2.10.8-R4.3.31
19	自然史	キハダエビグモ類	3	野口奨悟 (九州大学天敵昆虫学研究室)	キハダエビグモ類の分類学的研究	R2.10.28-R3.20.27
20	自然史	ウナギ目ウミヘビ科の仔魚 (貸出および分割譲渡)	10	望岡典隆・遠藤詢介 (九州大学大学院)	ウナギ目ウミヘビ科の仔親研究	R2.11.4
21	自然史	プノメグソクムシ	1	奥野淳児 (千葉県立中央博物館)	プノメグソクムシの同定に向けた形態形質の検討	R2.12.1-R3.3.31
22	自然史	スナメリ組織標本 (腎臓・肝臓・筋肉・ブラナー各1点)	4	田島木綿子 (国立科学博物館)	スナメリの組織に含まれる物質や遺伝解析	R2.11.26
23	自然史	イケダケブカガニ (ホロタイプ標本)	1	奥野淳児 (千葉県立中央博物館)	イケダケブカガニの分類学的再検討	R2.12.10-R3.3.31
24	自然史	アカエソ属浸液標本	3	遠藤広光 (高知大学)	分類学的研究	R3.1.29-R4.3.31
25	自然史	キハダエビグモ類 6種 22頭	22	野口奨悟 (九州大学天敵昆虫学研究室)	クモ目の発案器官の形態研究	R3.2.2-R4.2.1
26	自然史	台湾産ハムシ類	42	Chi-Feng Lee (台湾農業試験場)	台湾産ハムシ科の研究	R3.3-R4.2
27	自然史	佐賀県北方町産骨質歯鳥下顎化石	1	田上 響 (福岡大学理学部)	研究 (蛍光 X 線分析の実施)	R3.3-R3.5
28	自然史	宗像市産哺乳類化石標本 (コリフォドン)	14箱	宮田和周 (福岡県立恐竜博物館)	新生代における絶滅哺乳類相の研究	R3.3.20-R4.3.19
29	自然史	ヤマガラ (冷凍標本)	3	上田恵介 (立教大学名誉教授)	ヤマガラの化学防御に係る研究	R3.3.25-R3.4.30
30	歴史	宮原遺跡出土 石包丁	1	大阪府立弥生文化博物館	大阪府立弥生文化博物館の常設展示及び収蔵展示のため	R2.4.1-R3.3.31
31	歴史	八幡市鳥瞰図 戸畑市鳥瞰図 若松市鳥瞰図 大日本職業明細図 (八幡市) 戸畑市全図 (昭和 10 年) 若松市全図 (昭和 8 年)	6	「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議会長	世界遺産登録 5 周年記念「三池港と洞海湾～「明治日本の産業革命遺産」企画展 3」で展示するため	R2.11 月上旬- R3.3 月下旬
32	歴史	長宜子孫銘内行花文鏡	1	小倉城庭園 渡辺亭	企画展「小倉城地下探検展～3500 年前に歴史はあった」において展示するため。	R3.2.10-R3.4.28

2 1. 画像等資料の貸出状況 (自然史・歴史)

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	プロトプテルム類復元骨格、ニホンサイ復元骨格、ヤベオオツノジカ復元頭部、パレオパラドキシア復元骨格	8	山根秋郷	申請者製作の標本をまとめた冊子 (自費出版予定) への掲載	R2.5.19
2	自然史	ニッポンアミア・サトウイの化石および復元画像	2	ふくしま海洋科学館	依頼者の HP の生物解説用ページに使用	R2.5.19
3	自然史	ケツアルコアトルス全身骨格画像、同生体復元画像、ソルデス全身骨格画像、ズンガリプテルス全身骨格画像、御船層群産翼竜化石画像	5	群馬県立自然史博物館	企画展「空にいでんた勇者たち」における展示パネルやガイドブックでの利用の延長申請 (コロナによる特別展の会期変更に伴うもの)	R2.5.20
4	自然史	シーラカンズ類の化石写真・復元図等	25	ふくしま海洋科学館	開館 20 周年記念企画展「シーラカンズからメダカまで」での利用	R2.5.19
5	自然史	ネオアサフス (三葉虫) 画像	1	小学館	「小学 8 年生」生きている化石と絶滅古生物の特集記事への掲載	R2.6.5
6	自然史	ティラノサウルス頭骨レプリカ画像	1	NHK エンタープライズ	かつて NHK で放送したドラマ「青春牡丹灯笼」を CS 時代劇専門チャンネルにて再放送するための許可申請	R2.6.5
7	自然史	自然史博物館および山田緑地付近での発掘調査風景	2	映像ホッパス	市政テレビ「プライド K 北九州イチバン物語」での使用	R2.6.26
8	自然史	自然学習園-春～秋の鳥類 (YouTube 動画)	1	ジェイコム北九州	「ジモト応援! 北九州つながる News」での使用	R2.7.2
9	自然史	プロトプテルム類復元骨格画像のトレース画	1	蒲郡市生命の海科学館	展示の解説パネルに利用	R2.7.25
10	自然史	恐竜足跡化石 (吉母海岸産) 画像	1	小学館	「小学 8 年生」の日本で発掘される恐竜 Map で使用	R2.7.21

11	自然史	ディプロミスタス・コクラエンシスのホロタイプ画像	1	田畑純氏（日本医科歯科大学）	申請者著「鱗の博物誌（グラフィックス社）」への掲載	R2.9.3
12	自然史	カルカロドン・メガロドン画像	1	佐賀県立宇宙科学館	秋冬企画展「佐賀の五代古生物の謎を追え～不動寺康弘コレクションから見る佐賀の化石～」での使用	R2.9.8
13	自然史	山口県産ジュラ紀アンモナイト（カナバリア、フォンタネリセララス、ハルボセライトデス、プロトグランモセララス、エオデロセララス超科の一種）の画像データ	5	東海化石研究会	「日本のジュラ紀アンモナイト図鑑（東海化石研究会編）」への掲載	R2.9.7
14	自然史	ナウマンゾウ骨格レプリカ画像	1	アプロ	中学校教科ワーク理科1年（株式会社文理発行元）、東京書籍、学校図書、教育出版、大日本図書から発行	R2.9.14
15	自然史	ディプロミスタス・コクラエンシス画像	1	新興出版社啓林館	スマートレクチャー（スマホアプリ内のデジタル書籍）およびマルチリンガル教科書（日本語でのコミュニケーションに課題がある児童用のネットで提供する教科理解促進教材）	R2.9.17
16	自然史	アシヤニシキ、アシヤキリガイダマシ、メタスクアロドン、ヤマトクジラ	7	岡崎美彦	崗 46号（芦屋町郷土資料館発行）に掲載	R2.10.5
17	自然史	トリケラトプス全身復元骨格画像	1	テレコムスタッフ株式会社	「スピルパークの子どもたち」内で使用（WOWOWで放映）	R2.10.8
18	自然史	ディプロドクス（セイスモサウルス）	1	朝日学生新聞社	朝日小学生新聞連載記事「ここまでわかった恐竜のなぞ」への掲載	R2.10.22
19	自然史	恐竜すずはらいの実施状況画像	1	朝日広告社コミュニケーションデザイン本部	月刊フリー情報誌「リトルマ北九州」への掲載（暦にまつわるイベントとして掲載予定）	R2.10.23
20	自然史	ナウマンゾウ骨格レプリカ画像	1	地域教材社	中学理解副教材『理科ノート&ワーク』ノート編「地層や化石からわかること」への掲載	R2.11.18
21	自然史	ティラノサウルス画像	1	λプロダクション	『ティラノサウルス骨格ミュージアム（学研プラス刊）』に掲載	R2.12.3
22	自然史	ウミユリ、ディプロミスタス、ヤマトクジラ画像	3	野田勝利（八幡東区）	高見自治区会の広報誌「さくら便り」に掲載予定	R2.12.24
23	自然史	恐竜の卵化石画像	1	新興出版社啓林館	oLibry（スマホアプリ）。2019年に中学校理科教材用に貸出した画像の二次利用	R3.1.4
24	自然史	曾根干潟、平尾台、クロツラヘラサギ、ズグロカモメ、カブトガニ各	5	環境局環境学習課	環境学習用「みどりのノート」への掲載	R3.1.14
25	自然史	博物館外観、展示室、展示標本	一式	グリーンパーク活性化共同事業体	ひびきなだディノパークに設置する「化石の谷」における解説パネル作製用資料	R3.1.23
26	自然史	カスミサンショウウオ	3	自然環境研究センター	種の保存法における種指定作業等での利用	R3.1.27
27	自然史	ナウマンゾウ幼体骨格レプリカ画像	1	テレビ西日本	「もち浜ストア特報ライブ」での利用	R3.2.24
28	自然史	カスミサンショウウオ	3	自然環境研究センター	種の保存法における種指定作業等での利用	R3.2.25
29	自然史	カンボ隕石、三葉虫、ディメトロドン、オパール、アースモール展示風景、エンバイラマ館展示風景、博物館外観などの画像	8	アーク・コミュニケーションズ	朝日新聞出版社発行予定「47都道府県ニッポン学び旅200（仮題）」への掲載	R3.3.25
30	歴史	小倉織袴	2	日本放送協会 北九州放送局放送部 澤岡弘一	報道番組「ニュースブリッジ北九州」での特集「小倉織でつくるマスク」において、使用。	R2.5.18
31	歴史	天正18年4月「豊臣秀吉禁制」	1	布田天神社 宮司 野澤康次郎	布田天神社発行の地域情報誌「社」に掲載	R2.5.20
32	歴史	豊国名所（三官飴）	1	株式会社 弦書房 代表取締役 小野静男	「外来食文化考（仮題）」に掲載	R2.7.6
33	歴史	若松市鳥瞰図	1	若松再発見の会 作繁子	会員限定「若松・市街地史跡めぐり」ガイドブック表紙に使用するため	R2.7.1
34	歴史	小笠原忠真画像	1	FBS福岡放送報道局報道部 岩浦芳典	FBS福岡放送「バリはやっ！ZIP」北九州市ぬか炊き紹介のため	R2.8.12
35	歴史	杉田宇内書簡 昭和31年（1956）	4	久女・多佳子の会 久末隆彦	俳誌「青嶺」令和3年2月号に掲載するため	R2.8.12
36	歴史	豊国名所（三官飴）、福田屋「鶴の子」看板	2	北九州市広報室広報課 広報課長 加治美和	北九州市政だより9月1日号への掲載のため	R2.8.13
37	歴史	小倉藩土屋敷絵図、西国内海名所一覧	2	北九州市立長崎街道木屋瀬記念館 館長 宇佐美健次	企画展「出島の三学者が見た北九州・木屋瀬」に使用するため	R2.8.22
38	歴史	豊国名所（三官飴）、西国内海名所一覧	2	RKB毎日放送局 報道局報道部 担当部長 弘一	市政番組「プライドK～北九州イチバン物語～」の小倉織紹介の映像のなかで使用	R2.9.10
39	歴史	宗祇馬上図	1	株式会社童夢 代表取締役 伊藤正広	光村教育図書株式会社『光村の国語のワーク3 令和3年版』に掲載するため	R2.10.8
40	歴史	冷水遺跡出土銅矛	1	北九州市立貫市民センター 館長 松本加津	貫校区歴史ウォーキングマップの作成のため	R2.10.9

41	歴史	八幡市鳥瞰図 戸畑市鳥瞰図 若松市鳥瞰図 大日本職業明細図（八幡市） 戸畑市全図（昭和10年） 若松市全図（昭和8年）	6	「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議会長	世界遺産登録5周年記念「三池港と洞海湾～「明治日本の産業革命遺産」企画展3」に使用するため	R2.10.16
42	歴史	碁石頭伊予札萌黄糸威段替胴丸具足、刀「銘（一葉葵）筑州信国源正包 享保十二丁未春三月」、豊臣秀吉朱印状、黒田忠之画像、博物館外観	5	株式会社ホビージャパン	2020年12月4日発売『刀剣画報 Vol6』に掲載するため	R2.10.20
43	歴史	小倉城模型、小笠原忠真画像	3	テレビ朝日映像株式会社 ビジネス総局長 相川憲一	BS朝日「日本の城見聞録」のDVD化に使用するため	R2.10.27
44	歴史	小倉藩土屋敷絵図	1	小倉城庭園 渡辺亨	企画展「小倉城地下探検展～3500年前に歴史はあった」において使用するため	R2.11.4
45	歴史	絹本着色黒田二十四騎画像、黒田二十四騎画像	25	北九州市立長崎街道木屋瀬記念館 館長 宇佐美健次	企画展「黒田家の兜 黒田長政と二十四騎（仮称）」に使用するため	R2.12.19
46	歴史	西国内海名所一覧	1	北九州市小倉北区役所総務企画課 企画広報担当課長 太田知宏	小倉北区役所 FBにて小倉北区の長崎街道と街道沿線の史跡を紹介するため	R3.1.18
47	歴史	福田屋店舗写真	1	北九州市産業経済局観光課 観光振興担当課長 窪田浩二	「シュガーロード」ガイド育成事業用テキストの資料として	R3.1.20
48	歴史	小倉織袴	1	NHKエンタープライズ九州支社制作部 豊倉極	「はっけん TV (テレビ) (NHK 総合) 「伝統を未来へつなぐ小倉織～福岡 北九州市」で放映するため	R3.1.30
49	歴史	杉田宇内書簡 昭和31年（1956） 杉田宇内ハガキ	15	桑原文子	杉田久女・杉田宇内の調査研究のため	R3.2.3
50	歴史	杉田久女色紙（昭和9年）、杉田宇内年賀状（昭和28年）、福田屋掛	5	桑原文子	杉田久女・杉田宇内の調査研究、および雑誌『俳句』5月号に掲載するため	R3.2.22
51	歴史	小笠原忠真画像	1	三木市長 仲田一彦	『新三木市史地域編 4 志染の歴史』に掲載するため	R3.2.25
52	歴史	小倉城模型、小笠原忠真画像、小笠原忠真所用具足（碁石頭伊予札萌黄糸威段替胴丸具足）	7	株式会社碧水社 代表取締役 清水淳郎	『隔週刊 日本の城 DVD コレクション』第31号を制作するため	R3.3.2
53	歴史	西国内海名所一覧	1	株式会社碧水社 代表取締役 清水淳郎	『隔週刊 日本の城 DVD コレクション』第32号を制作するた	R3.3.16

2 2. 研究業績

(1) 普及課

1) 論文など

- 安里 瞳・伊澤雅子. 2020. 沖縄島におけるトガリネズミ科およびネズミ科動物の毛の形態による種判別法の検討. 哺乳類科学, 60(2), 191–210. (査読あり)
- Chen, S-F., Juan, C-H., Rossiter, S.J., Kinjo, T., Fukui, D., Kawai, K., Tsang, S.M., Veluz, M.J., Sakurai, H., Lin, H-C., Jang-Liaw, N-H., Osawa, K., Ko, W-Y. and Izawa, M. 2020. Population genetic structure of the insular Ryukyu flying fox *Pteropus dasymallus*. *Biotropica*, 2021;53, 548–559. (査読あり)
- Kobayashi, S., Denda, T., Liao, C-C., Lin, Y-H., Placksanoi, J., Waengsothorn, S., Aryuthaka, C., Panha, S. and Izawa, M. 2020. Effects of different pollinators and herbivores on the fruit set height of the mammal-pollinated tree-climbing vine *Mucuna macrocarpa*. *Journal of Forest Research*, 25(5), 315–321. (査読あり)
- Kobayashi, S., Gale, S. W., Denda, T. and Izawa, M. 2020. Rat- and bat-pollination of *Mucuna championii* (Fabaceae) in Hong Kong. *Plant Species Biology*, 36(1), 84–93. (査読あり)
- Kobayashi, S., Kinjo, T., Kuroda, Y., Kinjo, M., Okawara, Y., Izawa, M., Onuma, M., Haga, A., Nakaya, Y. and Nagamine, T. 2020. Predation on endangered species by cats in the northern forests of Okinawa-jima Island, Japan. *Mammal Study*, 45(1), 63–70. (査読あり)
- Kobayashi, S., Placksanoi, J., Waengsothorn, S., Aryuthaka, C., Panha, S. and Izawa, M. 2020. Activity pattern and resource use of two *Callosciurus* species in different habitats in northeastern Thailand. *Raffles Bulletin of Zoology*, 68, 654–661. (査読あり)
- Kobayashi, S., Panha, S., Placksanoi, J., Waengsothorn, S. and Izawa, M. 2021. Flower visitors of *Parkia sumatrana* (Leguminosae) in northeastern Thailand. *Tropical Natural History*, 21(1), 200–208. (査読あり)
- Lin, K-P., Chaw, S-M., Lo, Y-H., Kinjo, T., Tung, C-Y., Cheng, H-C., Liu, Q., Satta, Y., Izawa, M., Chen, S-F. and Ko, W-Y. (2021) Genetic Differentiation and Demographic Trajectory of the Insular Formosan and Orii's Flying Foxes. *Journal of Heredity*, 112(2): 192–203. (査読あり)

2) 学会等講演

- 安永あや・本村英祐・宮元香織・森 康・御前明洋・大橋智之. 2021. 全職員で実施した博物館再開に向けた COVID-19 対策. 令和 2 年度全国科学博物館協議会第 28 回研究発表大会. (オンライン開催)
- 小林 峻・渡邊謙太・藏屋英介・當山瑛子・Somsak PANHA・Nattawadee NANTARAT・Jumlong PLAKSANOI・Surachet WAENGSOOTHORN・Chi-Cheng LIAO・Stephan W. GALE・傳田哲郎・伊澤 雅子. 2021. 東・東南アジアにおける哺乳類媒植物 (マメ科トビカズラ属) の香気成分. 第 68 回日本生態学会全国大会. (オンライン開催)

3) 書籍・普及書など

- 伊澤雅子. 2021. 島にすむ日本のヤマネコ. 水口・秋山編著. 世界で一番美しい野生ネコ図鑑. pp.112–115. 誠文堂新光社, 東京.
- 伊澤雅子. 2021. きのうえでくらすいきもの. いきものづくしものづくし 9, 読んでたのしむいきものづくしものづくし (別冊解説) . pp. 9–12. 福音館書店, 東京.

4) 外部資金獲得状況

- 公益財団法人自然保護助成基金 第 31 期 (2020 年度) プロ・ナトゥーラ・ファンド助成. 海洋島大東諸島の固有種とそれを支えるピロウ林の現状と保全に関する研究—その後の経緯と新しい外来種の影響. 研究代表者 伊澤雅子

(2) 自然史課

1) 論文など(アルファベット順)

- 江頭幸士郎. 2020. 「かべちよろ」ってなに? 博物館展示を用いた地方名のアンケート調査の試み. 九州両生爬虫類研究会誌, 11, 38–48. (査読なし)
- Eto, K. 2020. *Limaformosa crossi* (Crosse's File Snake) and *Mehelya poensis* (Western Forest File Snake). Coloration/Biofluorescence. Herpetological Review 51(3), 69–70. (査読なし)
- 江頭幸士郎・小川雅弘. 2020. 福岡県におけるシロアゴガエル (*Polypedates leucomystax*) の初記録. 爬虫両棲類学会報 2020(1), 61–63. (査読なし)
- Fikáček, M., Hu, F.-S., Aston, P., Jia, F.-L., Liang, W.-R., Liu, H.-C. and Minoshima, Y. N. 2020. Comparative morphology of immature stages and adults of *Hydroscapha* from Taiwan, with description of a new species from Hong Kong (Coleoptera: Myxophaga: Hydroscaphidae). Raffles Bulletin of Zoology, 68: 334–349. (査読あり)
- Fukuyama, I., Vogel, G., Matsui, M., Eto, K., Munir, M., Hossman, M. Y., Hamidy, A., and Nishikawa, K. 2020. Systematics of *Calliophis intestinalis* with the Resurrection of *Calliophis nigrotaeniatus* (Elapidae, Serpentes). Zoological Science, 37(6), 586–594. (査読あり)
- 林 亮太・日比野友亮・田中 颯・中島 淳・神保宇嗣・熊澤辰徳. 2020. 『ニッチェ・ライフ』における生物多様性情報の共有の試み. ニッチェ・ライフ, 7, 1–4. (査読なし)
- 日比野友亮. 2020. 南西濃の川魚食文化. ぎょぶる, 9, 48–51. (査読なし)
- 日比野友亮. 2020. 新知見の報文を書こう 魚類編. ニッチェ・ライフ, 7, 5–12. (査読なし)
- 日比野友亮・長野 淳. 2020. 三重県熊野灘で水揚げされた熱帯・亜熱帯性魚類. ニッチェ・ライフ, 7, 28–33. (査読なし)
- 日比野友亮. 2020. 国内2例目のゲットウウミヘビ (ウナギ目ウミヘビ科) の記録. ニッチェ・ライフ, 7, 52. (査読なし)
- 日比野友亮・金尾滋史・萩原富司. 2021. 絶滅に瀕するタナゴ文化: 特に食文化に関する素描. 魚類自然史研究会会報「ボテジャコ」, 25, 27–50. (査読なし)
- 日比野友亮・宮本 圭・桜井 雄・木村清志. 2021. 琉球列島における2016年1月の大寒波に伴い打ち上げられた2種の日本初記録を含む海産ウナギ目魚類. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告A類(自然史), 19, 13–26. (査読あり)
- Hibino, Y., Kuriwa, K., Yamada, T., Hatooka, K., Loh, K. H. and Sasaki, T. 2020. First Records of *Uropterygius oligospondylus* (Anguilliformes: Muraenidae) from Minami-iwo-to Island, Southern Japan. Species Diversity, 25 (2), 177–182. Published online. DOI: 10.12782/specdiv.25.177 (査読あり)
- Hibino, Y. and McCosker, J. E. 2020. Resurrection of *Ophichthus zophistius* (Actinopterygii: Anguilliformes: Ophichthidae), with a revised diagnosis of *O. altipennis*. Zootaxa, 4801 (2), 328–342. (査読あり)
- Kuraishi, N., Matsui, M., Ota, H., and Eto, K. 2020. Unique Evolution of *Hyla hallowellii* among Amphibians of the Central Ryukyus, Japan (Anura: Hylidae). Zoological Science, 38(2). (査読あり)
- Matsushige, K., Hibino, Y., Yasutake, Y. and Mochioka, N. 2020. Japanese eels, *Anguilla japonica*, can surmount a 46-m-high natural waterfall of the Amikake River system of Kyushu Island, Japan. Ichthyological Research. Published online. DOI: 10.1007/s10228-020-00759-1. (査読あり)
- 松尾 怜・日比野友亮. 2021. 八重山諸島石垣島から得られたモンガラカワハギ科の稀種ソコモンガラ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 4, 9–11. (査読あり)
- 真鍋 徹・柴田昌三・長谷川逸人・伊東啓太郎. 2021. 竹林の景観生態学的研究—竹林の持続可能な利用に向けて(総説)—. 景観生態学, 25, 119–135. (査読あり)
- 真鍋 徹・養島悠介・上田恭一郎・下村通誉. 2021. 自然史系展示における壁状集合展示が生物に対する観覧者の知覚や興味関心に与える効果について. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告A類(自然史), 19, 5–12. (査読あり)
- Matsui, M., Nishikawa, K., Eto, K., and Hossman, M. Y. 2020. Two New *Ansonia* from Mountains of Borneo (Anura,

- Bufonidae). *Zoological Science*, 37(1), 91–101. (査読あり)
- Matsui, M., Nishikawa, K., Eto, K., Hamidy, A., Hossman, Y., and Fukuyama, I. 2021. A new *Occidozyga* from Sarawak, Malaysian Borneo (Anura: Dicroglossidae). *Zootaxa*, 4926(4), 535–546. (査読あり)
- 蓑島悠介. 2020. ガムシ科の概要と花を訪れるガムシの研究. *昆虫 (ニューシリーズ)*, 23 (2): 65–73. (査読なし)
- Minoshima, Y. N. and Watanabe, R. 2020. Morphology of immature stages of *Helophorus (Gephelephorus) auriculatus* (Coleoptera, Helophoridae). *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 60 (1): 319–332. (査読あり)
- 中原 亨. 2020. 書評 遺伝子から解き明かす鳥の不思議な世界. *Strix*, 36, 159. (査読なし)
- 中原 亨・江頭幸士郎. 2020. 男女群島におけるヤイロチョウの初記録. *山階鳥類学雑誌*. 52(2), 144–146. (査読なし)
- 中島田正希・日比野友亮. 2020. 玄界灘より得られた福岡県初記録のカタボシイワシ (ニシン目: ニシン科). *Nature of Kagoshima*. Published online. (査読なし)
- Nishiyama, T., Ohfujii, H., Fukuba, K., Terauchi, M., Nishi, U., Harada, K., Unoki, K., Moribe, Y., Yoshiasa, A., Ishimaru, S., Mori, Y., Shigeno, M., Sarai, S. 2020. Microdiamond in a low-grade metapelite from a cretaceous subduction complex, western Kyushu, Japan. *Scientific Reports*, 10, 11645. (査読あり)
- Nishiyama, T., Eguchi, H., Mochizuki, N., Mori, Y., Arima, H., Yubuta, K. 2021. Spinifex-like textured metaperidotites from the Higo Metamorphic Rocks, Japan, a possible high-pressure dehydration product of antigorite serpentinite. *Island Arc*, 30, e12382. (査読あり)
- Ohashi, T. and Hasegawa, Y. 2020. New species of Plotopteridae (Aves) from the Oligocene Ashiya Group of northern Kyushu, Japan. *Paleontological Research*, 24, 285–297. (査読あり)
- 太田泰弘. 2021. 自然の中に楽しみを見いだす。いまだからこそ G&B 研究会. *ジオ&バイオ研究会報告書*, *ジオ&バイオ研究会*, 10, 36–38. (査読なし)
- Rodriguez, G., Fikáček, M., Minoshima, Y. N., Archangelsky, M. and Torres, P. L. M. 2020. Going underwater: multiple origins and functional morphology of piercing-sucking feeding and tracheal system adaptations in water scavenger beetle larvae (Coleoptera: Hydrophiloidea). *Zoological Journal of the Linnean Society*, zlaa132. (査読あり)
- 坂上 嶺・佐藤 駿・松重一輝・安武由矢・日比野友亮・眞鍋美幸・内田和男・望岡 典隆. 2021. 河川生活期のニホンウナギにおける浮き石による被食回避効果の検証. *日本水産学会誌*, 早期公開, DOI: 10.2331/suisan.20-00054 (査読あり)
- 佐藤真央・井上裕太・溝脇一輝・小林大純・松尾 怜・外山太一郎・日比野友亮. 2021. フェダイ科 *Lutjanus biguttatus* フタホシフェダイ (新称) の日本からの初記録. *魚類学雑誌*, 早期公開, DOI: 10.11369/jji.20-036 (査読あり)
- Shimada, T., Sanda, M., and Eto, K. 2021. A Comparison of Mating Calls Recorded around the Type Localities of *Rana tagoi* and *R. neba* (Amphibia: Anura: Ranidae). *Current Herpetology*, 40, 54–65. (査読あり)
- 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森 三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. 2021. <活動実績>独自活動と博物館への協力. *ジオ&バイオ研究会報告書*, *ジオ&バイオ研究会*, 10, 3–11. (査読なし)
- Takegaki, T. and Takeshita, F. 2020. Winter mortality of young mudskipper fish: Effects of size, temperature and energy depletion. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 530-531: 151436. (査読あり)
- Takeshita, F. 2020. Female fiddler crabs *Austruca lactea* (Decapoda: Ocypodidae) adjust their rate of mate sampling based on remaining days until oviposition under a size-dependent temperature constraint. *Biological Journal of the Linnean Society*, 131: 966–972. (査読あり)
- Takeshita, F. and Maekawa, T. 2020. *Paratectonatica tigrina* (Gastropoda: Naticidae) adjusts its predation tactics depending on the chosen prey and their shell weight relative to its own. *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 100: 921–926. (査読あり)

- Takeshita, F., Maekawa, T. and Henmi, Y. 2021. Growth rate is temperature-dependent, but the proportion of resource allocation between the growth and gonads is not, in early adult stage of the lancelet *Branchiostoma japonicum*. *Marine Ecology*, 42: e12628. (査読あり)
- Watanabe, K. and Minoshima, Y. N. 2020. First Record of *Coelostoma bhutanicum* Jayaswal, 1972 (Coleoptera: Hydrophilidae) from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 26 (1): 151–152. (査読あり)

【付記】

以下の論文（令和元年度年報掲載分）が、2020年日本哺乳類学会論文賞を受賞。

- Nakanishi, N. and Izawa, M. 2019. Rediscovery of otters on the Tsushima Islands, Japan by trail cameras. *Mammal Study*, 44 (3), 215–220. (査読あり)

2) 学会等講演（アルファベット順）

- 藤島幹汰・西澤秀明・笹井隆秀・日比野友亮. 2021. 胃内容物と安定同位体比分析を用いた2種の胎生ウミヘビ類の食性評価. 日本生態学会第68回全国大会. (オンライン開催)
- 福山伊吹・松井正文・江頭幸士郎・ヤジッド・ホスマン・西川完途. 2020. 形態及びSNP解析に基づくタカネチヨボグチガエルの分類学的再検討. 第59回日本爬虫両棲類学会大会. (オンライン開催)
- 日比野友亮・松尾 怜. 2020. 伊江島沖で採集されたトラギス科トラギス属魚類の1未記載種. 2020年度日本魚類学会年会. (オンライン開催)
- Konishi, T., Ohara, M., Misaki, A., Matsuoka, H. and Street, H.P. 2020. A new Mosasaurine (Squamata: Mosasauridae) from western Japan with unexpected postcranial morphology. *The Society of Vertebrate Paleontology 80th Annual Meeting*. (オンライン開催)
- 栗田隆気・竹内寛彦・江頭幸士郎. 2020. 更新世後期の氷期サイクルに注目したニホンマムシの系統地理パターン. 第59回日本爬虫両棲類学会大会. (オンライン開催)
- 松重一輝・安武由矢・日比野友亮・望岡典隆. 2020. 河川におけるニホンウナギの生息環境と遡上能力. 応用生態工学2020九州地区事例・研究発表会. (オンライン開催)
- 松重一輝・日比野友亮・安武由矢・坂上 嶺・望岡典隆. 2021. 石倉カゴの効果検証 11: 黄ウナギの移動性と石倉カゴを利用する個体の移動パターン. 令和3年度日本水産学会春季大会. (オンライン開催)
- 松重一輝・安武由矢・日比野友亮・望岡典隆. 2021. 河川におけるニホンウナギ保全に向けた研究: 生息環境と遡上能力について. 東アジア鰻学会第4回研究発表会. (オンライン開催)
- 三田真紀・江頭幸士郎・島田知彦. 2020. タゴガエルとネバタゴガエルの分布境界にみられる遺伝的、音響学的、形態学的な実態の解明. 第59回日本爬虫両棲類学会大会. (オンライン開催)
- 望岡典隆・坂上 嶺・松重一輝・安武由矢・日比野友亮・佐藤 駿・真鍋美幸・内田和男. 2021. 石倉カゴの効果検証. 東アジア鰻学会第4回研究発表会. (オンライン開催)
- 中原 亨・伊関文隆・中山文仁・山口典之. 2021. 西日本で越冬するノスリの生息地選択. 日本生態学会第68回全国大会 岡山. (オンライン開催)
- 大橋智之. 2020. 北九州にいた泳ぐ鳥～北部九州のプロトプテルム科鳥類の多様性～. 令和2年度自然史学会連合講演会. 北九州市立自然史・歴史博物館 (北九州市).
- 坂上 嶺・松重一輝・安武由矢・日比野友亮・内田和男・望岡典隆. 2021. 石倉カゴの効果検証9: ニホンウナギが選好する浮石による間隙構造の検証. 令和3年度日本水産学会春季大会. (オンライン開催)
- 菅野詩織・中島保寿・御前明洋・疋田吉識・徳丸さやか・中垣周平・佐藤たまき. 2021. 北海道中川町上部白亜系から産出したツノザメ類 *Protosqualus*. 日本古生物学会第170回例会. (オンライン開催)
- 田畑諒一・日比野友亮・福家悠介・西村俊明・渡辺勝敏・山崎 曜. 2020. タニガワナマズと東海地方産のナマズの遺伝的隔離と遺伝子流動. 2020年度日本魚類学会年会. (オンライン開催)
- 植松永至・小倉豪・溝口文男・中村 豊・中原 聡・楠木憲一・岩本忠義・平田智法・黒田治男・牛込祐司・松宮裕秋・峯 光一・鳥飼久裕・中原 亨・山口典之・大槻恒介・上田浩一・貞光隆志・西剛・古田慎一・中村滝男・森 茂晃・星野由美子・今森達也・増川勝二. 2020. フライトコールによる

ヤイロチョウ渡り調査の試み. パードリサーチ鳥類学大会 2020. (オンライン開催)
安永あや・本村英祐・宮元香織・森 康・御前明洋・大橋智之. 2021. 全職員で実施した博物館再開に向けた COVID-19 対策. 令和 2 年度全国科学博物館協議会第 28 回研究発表大会. (オンライン開催)

3) 書籍・普及書など (アルファベット順)

Hibino, Y. 2021. Muraenidae, Pegasidae, Centriscidae, and Terapontidae. In: Motomura, H., Kimura, S., Seah, Y. G., Sheikh Abdul Kadir, S. T. and Ghaffar, M. A. eds. Reef and shore fishes of Bidong Island, off east coast of Malay Peninsula. pp. 11, 14, 15 and 51. The Kagoshima University Museum, Kagoshima.

Manabe, T., Baba, M., Naito, K. and Ito, K. 2021. Evaluation of habitat functions of fragmented urban forests for wildlife -The case of Kitakyushu City. Ito, K. (ed.) Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities. pp.273–291. Springer, Tokyo.

Minoshima, Y. N. 2021. Kyoichiro Ueda—museum executive director general, curator, entomologist: an overview of his academic and administrative careers. Bulletin of the Kitakyushu Museum of Natural History and Human History, Series A (Natural History), 19: 5–12. (査読なし)

大橋智之 (監修代表). 2020. 凶解眠れなくなるほど面白い古生物. 127p. 日本文芸社, 東京.

竹下文雄. 2020. 複数の求愛シグナルを駆使したシオマネキ類の配偶行動. ベントス学会 (編). 海岸動物の生態学入門—ベントスの多様性に学ぶ. pp.58–59. 海文堂出版, 東京.

吉川夏彦, 島田知彦, 江頭幸士郎 (日本語訳監修). 2020. 世界のカエル大図鑑 (原本: Halliday, Tim. 2016. The Book of Frogs: A life-size guide to six hundred species from around the world). 655p. 柏書房, 東京.

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金補助金】

新学術領域研究(研究領域提案型) スロー地震の地質学的描像と摩擦・水理特性の解明. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 氏家恒太郎). 2016–2020 年度.

国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)). ヒキガエル利用からホテル利用へ: 毒源を変化させたヘビ類の進化過程の探求. 研究分担者: 江頭幸士郎 (研究代表者: 森 哲). 2018–2022 年度

基盤研究 (B). 実物資料を活用した自然史の新たな展示手法および展示理論の構築. 研究代表者: 上田 恭一郎. 研究分担者: 真鍋 徹・下村通誉・御前明洋・大橋智之・蓑島悠介・江頭幸士郎. 2017–2020 年度

基盤研究 (B). 自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築. 研究分担者: 真鍋 徹 (研究代表者: 三橋弘宗). 2019–2023 年度.

基盤研究 (C). 機械学習で読み解く蛇紋岩メラングジュ形成の過程と影響. 研究代表者: 森 康. 2020–2022 年度.

基盤研究 (C). 付着・穿孔生物化石から絶滅軟体動物の古生態を探る. 研究代表者: 御前明洋. 2019–2022 年度.

基盤研究 (C). イリオモテヤマネコの生存を支える西表島の食物網構造の解明. 研究代表者: 中西 希. 2018–2020 年度.

基盤研究 (C). 比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元. 研究分担者: 大橋智之 (研究代表者: 田上 響). 2018–2021 年度.

若手研究. 南シナ海西部インドネシア半島縁辺域における熱帯～温帯性魚類の分布障壁の解明. 研究代表者: 日比野友亮. 2020–2023 年度.

若手研究. 高い生物多様性を内包する里山環境の変遷を追う: 指標種ノスリを用いた検証と予測. 研究代表者: 中原 亨. 2019–2021 年度.

基盤研究 (C). ライバル雄の妨害がドライブするシオマネキ類の配偶者選択におけるシグナル系の複雑化. 研究代表者: 竹下文雄. 2019–2022 年度.

【その他】

東京大学地震研究所特定共同研究 (B) データ駆動型解析で推し進める変動帯ダイナミクス研究の深化.
研究分担者: 森 康 (研究代表者: 吉田健太), 2020年度.

公益財団法人自然保護助成基金 第31期 (2020年度) プロ・ナトゥーラ・ファンド助成. 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究代表者: 中西 希.

公益財団法人藤原ナチュラルヒストリー振興財団学術研究助成 (動物). なぜハクセンシオマネキの一部の雌は巣穴内交尾後に雄の巣穴から追い出されるのか? 研究代表者: 竹下文雄. 2019年度 (2020年度まで延長).

(3) 歴史課

1) 研究書・論文など (五十音順)

北九州市立自然史・歴史博物館編. 2020. 小倉城と城下町, p1-231 (査読なし)

上野晶子. pp.152.

中西義昌. pp.70-75, 142-151

日比野利信. (編集統括) pp.8, 47-64, 82-85, 95-98, 102-103, 113-16, 183-189, 204-206, 214-216.

日比野利信・馬場由行. pp.131-135.

宮元香織. pp.162-164, 173-174.

守友 隆. pp.31-46, 92-95, 109-113, 127-131, 198-204, 209-214, 217.

北九州市立自然史・歴史博物館編. 2021. 名刀「博多藤四郎」の輝き—戦国を生き抜いた武士の絆—, p1-32

(査読なし)

富岡優子. pp.6-7, 10, 21-23.

日比野利信. (編集統括) pp.3, 5, 8 (右), 9, 11-15, 20, 24, 25, 27-29, 32.

守友 隆. pp.8 (左), 16-17, 19, 26.

牛島英俊・上野晶子・池田博子. 2020 北九州の菓子今昔 八百啓介・九州外来食文化研究会編『外来食文化と日本人』弦書房, pp.80-87 (査読なし)

上野晶子・牛島英俊・八百啓介. 2020 江戸・明治期の外来食文化 八百啓介・九州外来食文化研究会編『外来食文化と日本人』弦書房, pp.117-125. (査読なし)

2) 資料紹介・書評など (五十音順)

富岡優子. 2020 【資料紹介】北九州市・開善寺所蔵 仏涅槃図 『北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告B類 (歴史)』18. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp.19-23 (査読なし)

富岡優子. 2021 大河内智之編『浄教寺の文化財【改訂版】』浄教寺, pp.44-46 (査読なし)

宮元香織. 2020 【資料紹介】福岡県立東筑高等学校考古資料 『北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告B類 (歴史)』18. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp.13-18 (査読なし)

3) 学会等講演・報告

安永あや・本村英祐・宮元香織・森 康・御前明洋・大橋智之. 2021. 全職員で実施した博物館再開に向けた COVID-19 対策. 令和2年度全国科学博物館協議会第28回研究発表大会. (オンライン開催)

4) 書籍・普及書など (五十音順)

上野晶子・中西義昌・日比野利信・宮元香織 (共著). 2020. 日本における便所の歴史とその特質 仁川広域市立博物館編『똥간, 화장실이되다 (邦題: 厠、トイレになる)』, pp.173-182.

上野晶子. 2020. 堀切辰一氏が遺した襤褸とその心『歴史友の会通信 博物館だより』1 pp.5

富岡優子. 2020. 北九州を愛した棟方志功『歴史友の会通信 博物館だより』1 pp.6-7

中西義昌. 2020. 写真から北九州の景観を探る『歴史友の会通信 博物館だより』1 pp.10-11

- 馬場由行. 2020. 近代資料としての家具『歴史友の会通信 博物館だより』1 pp.12-13
- 日比野利信. 2020 博物館の連携とネットワーク 『北九州文化』38
- 日比野利信. 2020 「戦国次世代」の絆と挑戦 『歴史友の会だより』77 pp.1
- 日比野利信. 2020. コロナ禍と歴史学『歴史友の会通信 博物館だより』1 pp.2-3
- 宮元香織. 2020. 馬形埴輪のはなし『歴史友の会通信 博物館だより』1 pp.4
- 守友 隆. 2020 豊前小倉時代の細川家 『武蔵のすべて 映画「武蔵-むさし-」より、剣豪・武蔵と映画を完全解析』pp.146-149.株式会社三上康雄事務所
- 守友 隆. 2020. 秋月藩主黒田長貞宛ての徳川吉宗黒印御内書『歴史友の会通信 博物館だより』1 pp.8-9

5) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金】

- 基盤研究 (C) 石炭資源の発見と近代政治システムの形成 研究代表者：日比野利信 2019-2021 年度
- 基盤研究 (C) 日本古代菓子の実態解明と再現活用に関する研究-東アジアの食膳研究その1- 研究分担者：宮元香織 (研究代表者：前川佳代) 2019-2021 年度.
- 基盤研究 (C) 小倉織の基礎的研究 研究代表者：上野晶子、研究分担者：日比野利信 2020-2022 年度
- 基盤研究 (C) 藕糸織の基礎的研究-非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に- 研究代表者：富岡優子 2020-2022 年度
- 基盤研究 (C) 幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成-対馬宗家文書を中心に 研究代表者：守友 隆 2020-2022 年度
- 若手研究 (B) 九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究 研究代表者：富岡優子 2014-2020 年度

【その他】

- (公財) カメイ社会教育振興財団 博物館学芸員等の内外研修に対する助成 日本・韓国におけるトイレ状遺構の調査 研究代表者：宮元香織 2020 年度

2 3. 博物館刊行物

(1) 研究報告 A 類 (自然史) 第 19 号 (2021 年 3 月 31 日発行)

J-Stage にてフリーアクセスで公開中 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kmnh/>)

Yūsuke N. Minoshima. Editorial: Kyoichiro Ueda—museum executive director general, curator, entomologist: an overview of his academic and administrative careers. pp.1–4. [上田恭一郎—自然史・歴史博物館前館長, 学芸員, 昆虫学者: 略歴と主な業績]

真鍋 徹・蓑島悠介・上田恭一郎・下村通誉. 自然史系展示における壁状集合展示が生物に対する観覧者の知覚や興味関心に与える効果について. pp.5–12. [Effects of wall-like assembly exhibition on visitor's perception and concerns of living things]

日比野友亮・宮本 圭・桜井 雄・木村清志. 琉球列島における 2016 年 1 月の大寒波に伴い打ち上げられた 2 種の日本初記録種を含む海産ウナギ目魚類. pp.13–26 [Annotated checklist of marine eels (Actinopterygii: Anguilliformes) stranded by a serious cold wave in January 2016 in Ryukyu Islands, Japan, including two newly recorded species of Japan]

園山貴之. 山口県初記録のホソヤギ科 (花虫綱: ウミトサカ目) 3 種. pp.27–34. [Three new records of Plexauridae (Anthozoa: Alcyonacea) in Yamaguchi Prefecture, Japan]

Soichiro Kawabe, Yusuke Ando, Shigenori Kawano and Kumiko Matsui. New record of a rostrum of waterbird (Aves, Suliformes) from the Oligocene of Ashiya Group in Ainoshima Island, Kyushu, Japan. pp.35–39. [北九州市藍島に分布する漸新統芦屋層群から新たに産出したカツオドリ目の吻部化石]

Masanori Okanishi, Mayuko Nakamura, Hana Tamura and Hisanori Kohtsuka. Redescription of *Amphipholis kochii* (Echinodermata: Ophiuroidea: Ophintegrida) collected from Sagami Bay, including ossicle morphology and COI sequence. pp. 41–51. [相模湾より得られたスナクモヒトデ (棘皮動物門: クモヒトデ綱: 完蛇尾上目) の骨片形態と COI 遺伝子配列情報を伴う再記載]訂正. pp.52.

(2) 研究報告 B 類 歴史 第 18 号 (2021 年 3 月 31 日発行)

【論文】

木島孝之「花尾城の「井戸曲輪」遺構の築造時期に関する一考察」 pp.1–11.

【資料紹介】

宮元香織「福岡県立東筑高等学校寄贈考古資料」 pp.13–18.

富岡優子「北九州市・開善寺所蔵 仏涅槃図」 pp.19–23.

(3) 図録

『名刀「博多藤四郎」の輝き—戦国を生き抜いた武士の絆—』(2021 年 1 月発行)

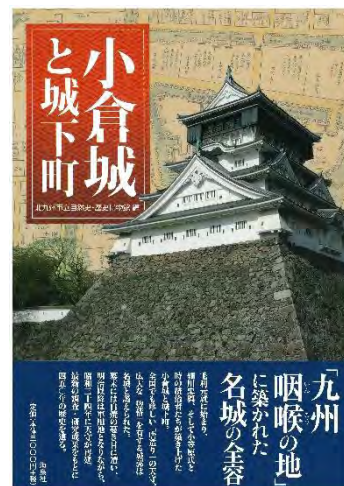
(4) 『小倉城と城下町』

小倉城は毛利元就に始まり、関ヶ原合戦後に細川忠興が天守を築き、城下町を建設した。後継者の細川忠利が小倉藩政の基礎を固め、忠利が熊本に転封した後は、譜代大名の小笠原忠真が城主となり、徳川幕府の西国支配の「要城」として重要な役割を果たした。全国的にも珍しい「唐造り」の天守と周囲8kmにおよぶ広大な「惣構」を有する小倉城は「名城」として称えられた。小倉城下町は九州の玄関に位置しており、長崎街道をはじめ中津街道、秋月街道の起点として、多くの人びとが往来した。

このような小倉城と城下町の重要性に鑑み、北九州市では小倉城の独自の歴史と魅力をわかりやすく紹介し、多くの人びとに知っていただくため、書籍の刊行を計画して、平成29年度から3年間をかけて編さん事業を実施し、令和2年6月に刊行した。

本書では小倉城の築城から現代まで、中心部だけでなく惣構全体を対象として、長年にわたる、そして最新の調査・研究成果に基づいて、本市の学芸員が総力を結集して執筆している。

本書は北九州市内ほかの主な書店で販売している。また如上の趣旨に鑑みて、市内の図書館や学校、市民センターに無償配付している。



編 集 北九州市立自然史・歴史博物館

監修者 永尾正剛（北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員、北九州市文化財保護委員会委員長）

編集責任者：日比野利信（北九州市立自然史・歴史博物館）

佐藤浩司（前・（公財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室）

関川 妥（（公財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室）

他の執筆者：上野晶子・中西義昌・馬場由行・宮元香織・守友 隆（北九州市立自然史・歴史博物館）

立野康志郎・松井和幸（北九州市文化企画課）

中村利至久・山口裕子（（公財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室）

仕 様 B5判、ソフトカバー、オールカラー232ページ

構 成 第一部 小倉城の歴史 第二部 城内の変遷 第三部 城下町の変遷 第四部 城下町と交通
コラム（キリシタン、葡萄酒、小倉織、小倉祇園、小倉鋳物師、朝鮮通信使）

価 格 3,000円（税込3,300円）

発 行 海鳥社



年 報

令和 2 年度

令和 3 年 9 月 30 日 発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<http://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY